

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

令和8年2月招集

我孫子市議会定例会会議録（第3号）

令和8年3月4日（水）

議 事 日 程

議事日程（第3号）

令和8年3月4日（水） 午前10時開議

日程第1． 市政に対する一般質問

午前10時00分開議

○議長（日暮俊一君） これより本日の会議を開きます。

議 長 の 報 告

○議長（日暮俊一君） 日程に先立ち御報告申し上げます。

監査委員から現金出納検査の結果報告がありました。配付のデータにより御了承願います。

市政に対する一般質問

○議長（日暮俊一君） 日程第1、昨日に引き続き市政に対する一般質問を行います。

順次発言を許します。あびこ未来代表坂巻宗男議員。

〔坂巻宗男君登壇〕

○坂巻宗男君 皆さん、おはようございます。あびこ未来の坂巻です。

会派を代表しまして、大綱4点にわたって質問をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

昨年は戦後80年ということで、我孫子市も平和都市宣言40年の節目の年ということで様々な平和事業が行われてきたところでありました。その最後を飾ったのは、12月に行われた平和の集いで、広島への派遣中学生の発表、それから我孫子中学生による平和と戦争を題材にした演劇、それから我孫子市平和のうた「願いを込めて～PEACE FOREVER～」の披露という3部構成でありました。そのどれもがすばらしかったわけでありますけれども、中でも平和のうたは、我孫子市でも初めての取り組みとなりました。作詞は、我孫子市平和事業推進市民会議、作曲はシンガーソングラ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

イターで禎子鶴のモデルとなった佐々木禎子さんの甥御さんであります佐々木祐滋さんであります。私自身は、この日は中学生の発表までしか見られなくて、平和のうたは市のホームページから後ほど鑑賞させていただきましたけれども、携わった皆さんの思いがこの歌に込められているのが伝わってきて大変感動いたしました。

一方で、今、世界を見れば、戦争の炎はむしろ広がり続け、今、この時が平和と呼べるのか不安な気持ちにもなります。「笑顔の種をまこう 笑顔の花を咲かせよう 平和の木が枯れないように 守り続けよう PEACE FOREVER 願いを込めて」、これは平和のうたの最後の一節であります。平和を守り続けるために私たちがしなければならないことは何か、そのようなことを強く意識しながら、私も議会活動をしていきたいと思っております。

今日の質問自体には平和事業などはありませんけれども、平和が全ての礎であるとの思いで質問に入らせていただきます。

それでは通告に従って、まず、1点目の持続可能な財政運営についてからお伺いをいたします。

それから、きょうは私、質問一問一答で行っているんですけども、大綱ごとの区切りというふうにさせていただいて、ちょっと項目自体が幾つかあるものですから、少し再質問などでは整理をしながら質問させていただこうと思っておりますので、御答弁のほうもよろしくお伺いをいたします。

まず、1点目の市民税の推移についてであります。

我孫子市の市税収入というもの、もちろんこれが市の財政の根幹になるわけですが、ここ数年で見ると、令和元年度が172億5,000万円、約ですね全て。令和2年度が172億4,000万円、令和3年度170億8,000万円、令和4年度174億3,000万円、令和5年度で177億8,000万円、令和6年度は減税があった関係で173億5,000万円ですが、減税分を除きますと実質は179億5,000万円。今、この令和7年度に3月補正かかっていますけれども、令和7年度の3月補正の数値で見ますと185億3,000万円。そして、来年度当初予算でいくと189億9,000万円ということで、ここ数年はやはり市税が増加傾向を示しているということが見て取れるわけでありまして、市は、今、この市税の増加傾向というものをどのように分析をしているのかということ、まずお聞かせください。特に、千葉県内の他市と比較したときに、市税の伸び率というのはどのような状況なのかもあわせてお聞かせください。

続きまして、ふるさと納税の展開についてお伺いをいたします。

ふるさと納税も過去の推移を見ても、ふるさと納税についてはいろいろ議論させていただいているところです。やっぱり、今、我孫子市の財政状況などを見ていったときに、企業の誘致等々で何とか財政を伸ばしていこうということはもちろん動きとしては行っているんですが、短期的にはなかなか難しいということの中で、ふるさと納税というのは、やはり、非常に重要な財源

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

になるんだろうということになります。そういう意味からも、このふるさと納税の展開というのは非常に重要だろうというふうに思っているところですけども。

ここも過去の推移を見てみますと、令和元年が、入りの部分は2,900万円でありました。令和2年度で3,500万円、令和3年度が3,200万円、令和4年度が4,100万円、令和5年度で3,200万円、また、少し減少するわけですが、令和6年度5,500万円、そして令和7年、今、補正がかかった段階で8,000万円という数値になっているところでもあります。徐々に増加しているという状況にありますけれども、一方で我孫子からやはり出ていってしまうふるさと納税の金額というものも大きいわけでもあります。

やはり、市としてこのふるさと納税、さらなる取り組みを進めていかなければならないわけでありますけれども、令和7年度の現時点での状況と、それから来年度、どのような取り組みをしていくのか、お聞かせください。

続いて3点目であります。

市債残高・債務負担行為支出予定額、そして、基金残高についてであります。

これも、全て数値を数年ごとで追ってみますけれども、ここ数年の起債残高を見てみますと、令和元年が305億円、それから令和2年度が303億円、若干減ります。令和3年度で316億円、令和4年度、ここがピークになるんですが、342億円、令和5年度で324億円、令和6年度316億円ということで、令和4年をピークにして少し減って行って、令和7年度末、ここで3月補正がかかっていますけれども、この数値を見ますと338億円ということになっていて、令和8年度の当初予算が330億円、予測ですね、予算で見ると330億円というふうになっています。令和4年をピークに減少傾向にあったわけなんですけど、ここでまた20億円ほど増加をしているという状況になります。

まずは、令和4年のピーク時の背景とその後の減少理由、さらに今年度、令和7年度の増加要因についてお聞かせください。

それから、市債とは別に、私はよく決算カードで決算の数値を追っていくんですが、その市債残高と、この下の項目に債務負担行為支出予定額というものがあって、昔はこれがいわゆる隠れ借金だみたいな言われ方をしていたものになるんですが、その債務負担行為の支出予定額というものを見ていきますと、これは右肩上がり、今、増加傾向にあるんですね。令和元年が177億円という数字だったんですが、これも見ていきますと令和2年度で213億円、令和3年度で228億円、令和4年度も同額で228億円、それから令和5年度が237億円、令和6年度274億円ということで、令和元年から比べると大体100億円ぐらい増加しているという状況があります。この債務負担行為支出予定額、増額の要因についてお聞かせください。

それから、また、この債務負担行為支出予定額というのは、市債に直接影響するようなものなの

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

か、あわせてお聞かせください。

この項目の最後は、財政調整基金を含む基金残高、基金の全ての総額は令和元年から見ますと、52億円、令和2年度53億円、令和3年度72億円、令和4年度78億円、令和5年度が87億円、令和6年度83億円、令和7年度3月補正で88億円ということで、この数値で見ると過去最高というふうな形になっていると思います。このうちの財政調整基金が令和7年度の3月補正ですね、42億9,400万円ということで、数値を追ってみるとこれも過去最高になるというふうに思います。この基金積立金の増加要因について、市の見解をお聞かせください。

それから、この大綱の最後の項目になります。水道局の長期債務についてであります。

水道局については、9月議会でいわゆる料金改定のことをやったわけですが、そこで様々な資料を出していただきました。それらを見たときに、私もその中の質疑等で申し上げたんですが、料金改定の額の大きさとともに今後の債務が増えていくという、このスピードの速さというか積立ての大きさ、これがむしろもう一つの課題ですねということは、そのときにも申し上げたところでありました。ただ、そのときは当然、料金改定が主の議論になっていますから、そこではそのことを直接には議論できなかったんですが。ということで、ちょっと、今回、取り上げるんですけども。

水道局の企業債の残高の推移を見ますと、令和元年度に6億3,000万円だったんですけども、それ以前もかなり低い数値で推移しているんですね。それが、令和2年度で10億円、令和3年度で11億8,000万円、令和4年度で14億7,000万円、令和5年度で18億5,000万円と年々増加しており、今後の見通しでも、令和6年度の22億円が令和7年度で29億円、令和8年度44億円、令和9年度54億円、令和10年度62億円と、ここ数年で3倍も跳ね上がるという想定になっています。

ちなみに水道料金収入というのは料金改定後で大体25億円程度ですから、その2.5倍ほどの規模となります。さらに、令和20年度には81億6,000万円の数値が示されており、なぜここまで企業債が膨れ上がるのかをお聞かせください。また、今後、持続可能な経営が成り立つのか、水道局の方針をお示しくください。お願いします。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員の質問に対する当局の答弁を求めます。中光啓子財政部長。

〔説明員中光啓子君登壇〕

○説明員（中光啓子君） 私からは、（1）と（3）についてお答えします。

初めに、（1）についてお答えします。

本市における市税の増加傾向としては、個人市民税が納税義務者数の増と近年の人件費の上昇に伴い所得が全体的に伸びていること、また、固定資産税が新築家屋棟数の増や地価の上昇などにより安定した増収となっていることが主な増加要因と捉えています。

近隣東葛6市と比較した市税の状況は、令和3年度決算はコロナの影響により減収となった自治

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

体が多い状況でしたが、令和4年度及び令和5年度の決算額では各市とも増加、令和6年度決算は個人市民税の定額減税により各市減収となりました。令和7年度及び令和8年度の当初予算額においても増額となっており、その主な要因は、本市と同様に各市とも個人市民税の伸び率が市税全体を押し上げている状況となっています。東葛6市平均の令和8年度の市税の伸び率は5.0%、個人市民税の伸び率は6.9%に対し、本市では令和8年度市税の伸び率は4.7%、個人市民税の伸び率は7.7%となっています。

続いて、(3)についてお答えします。

初めに、令和4年度に地方債残高がピークを迎えた背景ですが、新クリーンセンター整備事業の最終年度を迎え、多額の借入れを行ったことが主な要因です。また、令和5年度以降残高が減少したのは、臨時財政対策債の借入額が減少したことが主な要因です。令和7年度の残高見込みが増加を見込むのは、令和6年度からの繰越事業に係る借入れが多いことや湖北消防署の整備や旧焼却炉の解体工事など大型の借入れが多いこと、また、国の補正予算に関連して前倒しで予算計上したことなどが要因です。

債務負担行為の支出予定額が増加したのは、資源回収及び資源化処理業務委託をはじめとしたごみ処理関係の業務委託や第2次教育ICT業務委託など大型の債務負担行為を設定したほか、指定管理者による施設の管理運営をはじめとした様々な委託業務について、物価高騰や人件費の上昇による委託費の増加傾向があることも影響していると考えています。

なお、債務負担行為は契約等により、将来の支出を約束する権限を予算の一部として付与するものであり、委託が主になっており、債務負担行為予定支出額は市債に直接影響するものではないと考えております。

最後に、基金の増加要因ですが、令和3年度以降、国税収入の上ぶれなどにより継続的に普通交付税の追加交付があり、財政調整基金残高を回復することができていること、減債基金については普通交付税の追加交付に当たり、臨時財政対策債償還基金費を計上しており、将来の償還に備えて積立てを行っていることなどが要因と考えています。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。高見澤隆企画総務部長。

〔説明員高見澤隆君登壇〕

○説明員（高見澤隆君） 私からは、(2)についてお答えいたします。

我孫子市のふるさと納税による寄附額が令和6年度で約5,500万円、令和7年度は2月末時点で7,228万4,000円となっており、増加傾向が続いています。しかしながら、我孫子市民の皆様が他の自治体へ寄附する額も増加傾向にあり、市税の減収に直結しているため、この流出超過の状況は依然として深刻な課題と捉えております。

課題解決に向けては、今年度より、ふるさと納税事業を財政課から企画政策課へ移管し、ゴルフ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

場利用券などの現地決済型返礼品の拡充、お米農家や新規事業者への協力依頼、既存事業者の商品ラインナップの増加など、市の特性を生かした返礼品の拡充やポータルサイトでの掲載情報の工夫に取り組んできました。さらに、より一層の改革を進めるため、令和8年度からのふるさと納税事業の委託先について、昨年11月にプロポーザル方式による選定を行い、寄附額の増加に向けた実現性の高い提案のあった新たな事業者に決定したところです。

令和8年度からは、この委託事業者と連携し、柱となる返礼品の開発や、ポータルサイトに掲載するページのより専門的なつくり込みを図ることで、寄附額のさらなる増加を目指していきます。具体的には、市内で生産量の多いお米に着目し、委託事業者が農家からお米を適正な価格で買い取った上で、返礼品としてポータルサイトへの掲載や発送業務等を一括して担うことで、農業者個人の利益の確保と事務的負担の軽減を図りながら、ふるさと納税市場で需要が高い商品を全国に提供していく予定です。既に市内の農業者へ働きかけを行っており、返礼品化に向けた準備を進めております。

また、この委託事業は、ふるさと納税の推進だけでなく、市内事業者の魅力が全国に伝わるようなSNS発信などのプロモーションも兼ねていることから、柱となる返礼品の開発とともに市内事業者の支援、我孫子市のPRを同時に進め、寄附額の増加につなげてまいります。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。古谷靖水道局長。

〔説明員古谷靖君登壇〕

○説明員（古谷靖君） （4）についてお答えします。

令和10年度までの企業債残高が増加している理由については、施設の耐用年数が経過し、修繕事業よりも更新事業の割合が増加していることから、事業費を確保するために企業債の借入額が増加している状況です。水道局の借入状況については、平成8年3月14日に借入れを行った後、新たな借入れを行っているのが令和2年3月30日になることから、令和元年度までは企業債残高が減少していました。

しかし、御指摘のとおり令和元年度以降に再び借入れを開始したことから、年々、企業債は増加傾向にあります。この背景には、令和7年度から推進している災害に強い管路の耐震化工事や老朽化した施設の更新事業を進めるために企業債の活用が不可欠であったためです。なお、これらの財源については、水道事業運営審議会において、災害に備え、施設の更新及び管路耐震化を進めてほしいという御意見を受け承認をいただきました。

最後に、今後の持続可能な経営体制の確立に向けて、令和11年度以降の事業計画については、令和8年度から策定を開始する新たな経営戦略ビジョンにおいて、特に企業債の借入額に留意しながら計画を策定したいと考えています。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

[坂巻宗男君登壇]

○坂巻宗男君 御答弁ありがとうございました。

まず、市民税の推移と市債等について、財政のほうに再質問させていただこうと思います。

市民税の推移については、今、お話がありましたように、やはり我孫子市民のみならず、国全体で人件費といいますか、所得を向上させるというふうな動きの中で、当然それは個人市民税に反映されてくるということで、東葛を含めてすべからず増加傾向にあるということでした。

私もちょっと一覧なども頂いて確認をして、もしかすると我孫子だけがあまり伸びが、伸びていることは伸びているんだけど、伸び率としてほかの自治体などに劣っているのかなと、そんなことなどもちょっと気になったものですから確認をさせてもらったところ、必ずしも県内などを見てもそんなことはなくて、例えば先ほどの4.7%の伸び率などでいうと、むしろ上位のほうに位置するのかななどというふうにも見ました。印西市だけはちょっとレベルが違うというか、固定資産税の伸びがちょっと異次元みたいなのところがあって比較にならないと。といってもお隣のまちなので、いろんな意味で影響は受けるなどは見ているんですが。

ただ、我孫子市もそういう意味では、所得を、今、増やしていくということの流れの中に乗っていると、あるいは地価が上昇しているということで、固定資産税などに関しては3年に1回の評価替えですから、毎年毎年というわけではありませんけれども、個人市民税などに関しては、やはりこれからも、ある程度、増加傾向は見込めるんだろうと。もちろん、その分の支出も増えるというところはあるわけですが、その辺をどういうふうに見ているかというのを、1点お聞かせいただきたいと思います。今後の市税の増加傾向ですね、春闘などでも賃上げ5%などというような数値も出てきていますから、また、そういったものが再来年の予算、来年度中の補正とかも当然あるでしょうし、再来年度以降の市税にも影響してくるかなと思いますので、今後、その辺、大きくどういうふうに見ているか、お聞かせいただきたいというのが1点。

それから、市債に関してなんですけれども、令和4年が一つのピークであったわけですね。そこが342億円。そこから減らすこと。先ほども読み上げたように、我孫子市の令和元年以降、ここ10年ぐらいで見てもいいんですけど、当然、増える時期はあるんですけど、しっかり減らす時期というのもあるって、そういった中で私は財政運営ができているなというふうに客観的に見て評価をさせていただいているんですね。一つのピークが令和4年度。これはまさにクリーンセンターなんです。後ほど最後にリサイクルの施設の話はしますけれども。このクリーンセンターも本当は380億円ぐらいまでは市債残高が跳ね上がる予定だったんですね。ピークになる予定だった。ところが入札等を含めて、かなり40億円ぐらい減額できた結果、今、342億円がピークになったんですね。

ですから、我孫子市の事業の取捨選択とか、あるいはその中での事業手法などによっては、こう

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

いった形で市債というのは目に見える形で減らすこともできるんであって、その辺しっかり、特に財政などは大きな目で見ていただきたいというに思っています。

質問としては、そういう中で、今、ここで340億円弱ぐらいですね、令和7年から8年にかけて、330億円から340億円ぐらいの市債残高というところになるんですけど、今後はどうなんですか、そのリサイクルセンターなどを踏まえたときに、先ほどお話しした380億円というのが我孫子市の一つのピークであったんだけど、それを超えるぐらいの額は、一旦は想定しなくちゃいけないかなというふうには思っているんですけども、その辺の今の段階での次のピーク、次の山というのかな、そこら辺の数値などは、現時点で、ある程度、想定できているのか。財政としてはこういうふうにしたいというふうな考え方があるのか。その辺についてお聞かせいただければというのが、この市民税と市債残高等の部分の再質問です。この点、まず御答弁をお願いします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。中光啓子財政部長。

○説明員（中光啓子君） まず、市税についてですけれども、坂巻議員がおっしゃられたように、今後、人件費の高騰なんかも含めまして、個人市民税をはじめ固定資産税も含めて伸びていくことが想定されます。そうした中で、それ以上の歳出の伸びも想定されていますので、市としては今後の市税の動向はしっかり踏まえた上で、歳入に伴った、見合った歳出をしっかりと予算立てしていくことが重要だというふうに考えております。

それから市債についてですけれども、今、臨時財政対策債がなくなってというか、その借入れがなくなりまして、今後、普通の事業債のほうが増えてくる状況になります。それですので、地方債残高としては、一定程度、同じような額が続く、ないしは大型事業が控えている中では、また、新たなピークというのは出てくるんですけども、公債費として返していくものも実質の負担は増えてまいりますので、単なる今の地方債残高と比べるだけではなく、返していく分の公債費なんかも併せて見ながら借入れをしていくことが重要だと考えています。

次の山ですけれども、やはり、今、いろいろ議論になっていますけれども、リサイクル施設をはじめ学校の大型修繕なんかも控えていますので、そういったものがどういう借入れをしながら平均的な地方債残高を保っていけるかというところは、しっかり見据えながら借入れのほうも検討していきたいと思っています。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

[坂巻宗男君登壇]

○坂巻宗男君 ありがとうございます。

市民税に関しては、今後も、ある程度、増加を見込めるだろうというふうなことでありますので、その辺も、当然、見据えながら、歳出で出ていってしまう部分も多いですから、適切な運営をお願いしたいと思うんですが。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

市債のピークがどれぐらいになるかという、その金額などは、まだ、出てきていないんですね、今の御答弁だと。その辺が出せるのか、あるいは出ないようでしたら、今のお話だけれどもリサイクルセンターなどは、今後、入ってくるわけですね。勉強会の資料などを見ると、70億円から80億円ぐらいの借入れがどうもあるのかなというふうな感じにも見受けられます。ただ、もちろん、それは今後の精査等々でどうなるか分からないけれども、今の資料など最新の直近のを見ると、そういうのが見えてきていますから、そういうのを、ある程度、足していくことになるのかなとも思うんですが。やはり、その辺のシミュレーションを早い段階で出していただいて、こういった形で今後我孫子市の財政というのは持続可能性を保てるんだというのは、財政として明確にしていく必要があると思うので、しっかり、今後、出していただきたい。

もし、今、数値で、ある程度、ピークの数値はこのぐらいを予測していますというのを出せるなら御答弁いただきたいし、今そこが具体数値として出てこないのであれば、今後、そのシミュレーションですね、出来上がった段階で速やかにお出しいただきたいと思うんですが、この点、いかがでしょうか。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。中光啓子財政部長。

○説明員（中光啓子君） 借入れ、地方債残高のシミュレーションにつきましては、今後20年、30年借入れも含めて、かなり、長期的なもので検討している資料がございます。公表しているものではないんですけれども、財政としては資料として持っておりまして、今、手元にないのでちょっと金額としては言えないんですけれども、確かに山は20年後、30年後にも来ますので、そういった資料を後ほど、お出ししたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

[坂巻宗男君登壇]

○坂巻宗男君 ぜひ、お願いしたいと思います。やはり、そういったものも今後の、今、直近で言えばリサイクルセンターの建設などに大きな影響を及ぼしますから、その辺、すぐお出しいただきたいというふうに思います。財政の点は結構です。

ふるさと納税については、今、緩やかに増加していますよというところで、今年度も7,200万円ぐらいまで来て、あと8,000万円まで800万円ぐらいというところで、ある程度、そういったものは見込めるという読みがあるんだと思います。来年度以降、新たな枠組みで始めていく。私なども提言させていただいたことあるし、多分、ほかの議員の方々もお話あったと思うけど、お米が何か、今できないのかということで、当初はなかなか農家の方々の負担も大きくて、ふるさと納税に結びつけるのが難しいみたいなお話もあったんだけど、その委託先を変えることで、今後、そこで大きくちょっと伸びが出せるんじゃないかと。

お米はやっぱり我孫子市の地形、風土というものを考えると、結局、我孫子というのは、農地に

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

包まれる、水田に包まれて、43平方キロメートルのうち3割が大きく言えば農地、農地のうちの7割が田んぼというふうなところだから、基幹産業って言うてもいいんですね、お米がね。主要産物と言っても。そういったものが、やっぱり、ふるさと納税に生かせるというのは、ふるさと納税の趣旨から言うてもそうですし、それから我孫子市の農業的な意味でもそうだし、産業という意味でもそうです、非常にやっぱりポイントになるんだろうと思うんですね。

ですから、そこは、ぜひ、本当に力を入れてやっていただきたいと思うんですが、その辺、今の時点で、ある程度こういうふうな数値というか、これぐらいいけるだろうとかいうのがあるのか、目安などが見えてきているのか、もし、お答えいただけるようであればいただきたい。

それから、今は8,000万円ぐらいの年度の入りはあるんだけど、恐らく10億円を超えるぐらいは、市民の皆さんがよそにふるさと納税をしてしまっているという現実もあるわけですよ。この辺の数値、例えば直近でも昨年度でも結構なんですけど、その辺の出の部分の数値などあれば、その辺もお聞かせいただければと思います。お願いします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。高見澤隆企画総務部長。

○説明員（高見澤隆君） ただいま坂巻議員のほうから、お米に関する数値の目標というところと出の部分ということで、大きく2点いただいたかと思うんですが、先に出の部分のほうを御説明させていただきますと思います。

先ほど、2月末時点で7,228万円の入りということで御答弁させていただいたんですが、出としましては令和6年度で12億円ほど出ていたものが、令和7年度は、今、2月末時点ですけれども、13億円、1億円また出が多くなっている状況でございます。市税の影響額も、去年は5億6,000万円ほどだったんですが、見込みですけれども6億円を超えるというような状況、今、6億3,000万円ぐらいを見ている状況でございます。その後、国の補填があった中では、最終的には損失額としては1億5,700万円ぐらいだろうというふうに見込んでいらっしゃると思います。

そんな中で、お米のほうに移らせていただきますと、まず、やはり、損失額1億5,000万円あるものを、目標としては令和8年度、こちらを目標にしていきたいというふうに思っています。プロポーザルをやって事業者を替えるというお話しさせていただいたんですけれども、そちらの事業者へのプロポの市の課題としては、3億円は目標にしたいというふうに出させていただいておりますので、まず、1年目、令和8年度1億5,000万円を目指して、当然、3億円を目指すというところは、1億5,000万円戻したとしても、まだ、歳出経費、事務経費と返礼品の経費がありますので、そこも50%ありますから1億5,000万円ということで見込んで、最終目標は市の目標としては3億円というふうに出させていただいた中で、来年度は1億5,000万円を、お米を中心に目標にしたいというふうに思っております。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

〔坂巻宗男君登壇〕

○坂巻宗男君 ありがとうございます。まさに歳出で出ていってしまう部分をお米で補えるかというところで、そういう提案をいただいたというところなんだろうなと思います。

ぜひ、我々議会でも1,000万円単位で議論しているわけなんですけど、やはり、そこでほかのまちなどを見て、やっぱりまずは1億円目指しましょうよとか、数億円というふうなお話がいろいろ出ている中で、具体的に市の、あるいはその委託先の事業者からもそういう数値が出てきたなというところで、今までよりも少し力強さを感じていますので、ぜひ、来年度期待していますので、頑張ってくださいというふうに思います。よろしくお願いします。

そうしましたら水道局のほうですね。水道局に関しては御答弁あったように、今まで基本的には借金をせずに経営してきたようなところから、ある意味で時代の中で老朽化なども進んで、地震などの災害も増えてきたということで、設備の更新などに投資していかなくちゃいけない、こういう時期が来たということでもあろうとは思っています。

ただ、私が資料などを見て一番やっぱり不安に思ったのは、先ほど市の債務のほうでもお話ししたように、市の債務は、だからピークがありながら一時期しっかり返済をし、また、大きな事業があると一つの山をつくり、また、減らしというところでの状況が見えてきているところだったんですが、水道局から今回の料金改定などでもらった資料で見ると、右肩上がりとにかく増えていってしまって、80億円ぐらいまでの債務が積み上がる。かつ、そのときのいわゆる資金残高、内部留保資金ですよ。これが今、30億円前後ぐらいあるはずですよ、この年度末で。それが例えば80億円の企業債が積み上がっちゃうときは、資金残高が77億円、いわゆるマイナスになるという実は試算が出ているんですよ。もちろん、これはいろいろ料金改定などしないで、現状のまま行ったときという数値なんだけれども。

ですからそういったものを見ると、やはり、それこそ持続可能な、もちろん、耐震化などを進めていかなくちゃいけないし、老朽化した電気設備等々を含めて更新していかなくちゃいけない、これは当然ですよ。それはやっていただく。ただ、そういう中でも、いわゆる返済計画であるとか、そういう財務の運営というものに対して、しっかりとしたビジョンが出されないと、大丈夫かというところで、耐震補強だけ進めていった結果、水道局が経営破綻してしまってもいけないわけなんです、当然ですね、そこは両輪で。それが来年度以降、つくられてくるビジョンのほうで、そういったところは明確にしたいということでもありますので、そこは債務がこのような超過にならないように、どうすればいいのかというところは、ぜひ、知恵を絞っていただきたいと思います。もう一度、御答弁をお願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。古谷靖水道局長。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○説明員（古谷靖君） 12月議会のときにも坂巻議員には、この問題については指摘をいただきまして、私も帰った後、水道局の中で管理職会議とか経営改善会議の中で、どうしていこうかということをやしまして、それで12月に5本の計画を一気に出して、それで早い段階で将来を見据えていこうということで、12月に5本の債務負担を認めていただきました。

今、坂巻議員が言われたパブリックコメントの資料を御覧になって言っていると思うんですけども、これはアセットマネジメント、要は水道局の資産、300億円ぐらいあるんですけども、そのうち、もう償却が終わっちゃっているのは81億円ぐらい、まだ、これから更新しなくちゃいけないというのがあるんですね。

これを、ただ、減価償却が終わっているからすぐに更新するのではなくて、この計画の中で実際にやらなくてもいいのか、それともサイズを小さくしてやっていかななくちゃいけないのかとか、そういうことを次の計画の中でしっかりと検討して、それで、その計画の中で削減できるものは削減して、経常的にかかる経費を削減して行って、なるべく歳出を抑えて行って、今度、借入れをしないようにしていこうかなと思っています。ですから、この5本の計画が2年間かけてつくりますけれども、できた暁にはしっかりと議員の皆さんに説明をして、今後の財政計画についても説明をしていきたいと思えます。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

[坂巻宗男君登壇]

○坂巻宗男君 ぜひ、お願いしたいと思えます。

債務負担で1億円ぐらいの5本の計画を立てて、多分、今日明日ぐらいかな、開札か何かですよ、かかるんですよ。私もそれ注目して見させていただいているんですけども、その辺も含めて、ぜひ、今後、実のあるというのかな、しっかりとした経営に生かせるようなものをお願いしたいというふうに思えます。

そうしましたら大綱の2に移ります。教育・文化行政になります。

まずは、部活動の地域展開についてであります。

令和6年度から進めている地域展開ですが、白山中1校での3クラブから、今年度は全ての中学校での24クラブへと広がっています。まさに今、その活動のさなかにあるところでもありますけれども、現在までの取り組み状況について、保護者や生徒への説明をどのように進め、どのような意見が寄せられているのか、まず、お聞かせください。

また、指導者についてはどのような状況にあるのか、お聞かせください。

さらに実際に24クラブの活動をする中での現状と課題をお聞かせください。

来年度には全てのクラブの地域展開を進めるとの方針が明確になっていますが、具体的にどのようなスケジュールで進めるのか、また、各家庭の負担はどの程度が想定されるのか、お聞かせくだ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

さい。

2点目です。小学校体育館の空調設備についてであります。

これは昨日、清風会の澤田議員も質問されましたけれども、小学校体育館の空調設備への予算がいよいよ計上される段階になりました。来年度は再建する湖北小に、まず、設置され、これとは別に二小と三小2校分の設計予算がつけられています。小学校は全13校あることを踏まえると、まだ、10校はその先が見えていない状態ですが、やはり、教育の場であり避難所にもなる体育館には、どの学校も速やかに設置されることが望まれます。仮に1年で2校しかつけられないとなれば、あと5年以上かかってしまいます。市の技師の関係があるとのことでもありますけれども、できる限り速やかな設置を望みます。市の考えをお聞かせください。

3点目は、志賀直哉の草稿と小熊太郎吉についてです。

志賀直哉の『暗夜行路』の新たな草稿が見つかり、全国的な話題となりましたが、その草稿を預かっていたのは、小熊太郎吉さんという、我孫子町で剝製屋を営んでいた方でした。私も白樺文学館で学芸員の稲村さんから説明を伺って、『暗夜行路』の草稿とは別に、この小熊太郎吉さんの人物像に大変、心引かれるものがありました。このような方がいたから志賀さんも大切な草稿を預けられたんだと納得をしました。

2月にはアビスタで志賀直哉と小熊太郎吉との講演会も行われたところでもありますけれども、広報などを使って広くこの関係性を市民の皆さんに知ってもらうことが大切だと思います。市の見解をお聞かせください。

また、この太郎吉さんをひもといていくと、この時代の白樺派と我孫子の人々の関わりが見えてくるとも考えられます。改めて見解をお聞かせください。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。丸智彦教育長。

〔説明員丸智彦君登壇〕

○説明員（丸智彦君） 私からは、（1）についてお答えします。

令和7年度は、全中学校の24部活動を対象に地域展開を進めております。保護者や生徒に対しては、新入生保護者説明会や対象部活動の保護者説明会、さらにリーフレット配布を通じて地域クラブ活動の趣旨や概要を説明いたしました。加えて、生徒や保護者からの質問には専用フォームで対応し、ホームページも充実させて情報提供に努めています。

生徒・保護者からは、活動場所が遠くなることへの不安や大会・コンクール参加が今までどおりできるのかなどについての御意見をいただきましたが、活動場所については、特定学校の生徒に大きな負担が生じないよう拠点を複数設けるなどの対策を講じました。大会・コンクール参加に関しては、令和9年度末までは原則、学校部活動単位で参加することを説明し、数年かけて周知を図ることとしております。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

指導者の状況でございますけれども、希望する教職員の兼職兼業者が20名です。地域の指導者が32名となっております。各クラブ最低2名の指導者配置を基本とし、安全面にも十分配慮した指導を行っております。

現状と課題としては、地域クラブ活動は地域の指導者が学校の顧問と連携して運営しており、質の高い指導を受けられる体制が整い、活動は充実してきていると感じております。また、少子化が進む中、複数校を対象に一つのクラブとして活動できることは、団体活動の維持に大きな効果が期待されるなどというふうに感じています。一方で、クラブによっては特定の指導者への負担が大きくなっていること、また、学校施設の利用に課題がある、指導者や生徒・保護者からも御意見をいただいております。これらの課題については、実証事業の状況も踏まえ関係者と意見交換を継続しながら対応を進めているところです。

最後に、スケジュールについてです。令和8年度9月からは、年間を通して活動する全ての休日部活動を対象に地域展開を推進いたします。本年1月には、全小中学校の児童生徒、保護者向けに概要資料を配付しました。2月には、教職員向け説明会を開催しました。今後、3月中に生徒・保護者向けの動画視聴による説明会や指導者募集説明会を予定しており、説明会やホームページなどを活用し、周知に努めてまいります。

4月からは、指導者登録を進め、6月頃をめどに参加者登録を行う予定です。安全面を考慮し、8月には指導者向け研修会も開催いたします。これらの準備期間を経て、9月より地域クラブとして活動を開始します。家庭の負担につきましては、国より月3,000円程度までが望ましいとの方針が示されたことから、月会費を2,500円、年会費6,000円、令和8年度に至りましては半期でございますので3,000円です。保険登録料1,000円を予定しており、これらは指導者への謝金や管理運営費用等に充てさせていただきます。

なお、困窮世帯への支援については、就学援助世帯を対象に、原則、参加料を免除する予定であります。今後も生徒が充実した環境で活動することができるよう、部活動地域展開の取り組みを進めてまいります。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星野順一郎市長。

〔市長星野順一郎君登壇〕

○市長（星野順一郎君） 私からは、（2）についてお答えをいたします。

例年、猛暑が続いている中で、教育の場であり避難所にもなる体育館への空調設備の設置につきましては、喫緊の課題であると認識をしています。そのために来年度から小学校体育館の空調設備設置に向けた設計を行ってまいります。現在、業務に関わる技師が不足しているという現状にあり、来年度につきましては、我孫子第二小学校、そして、我孫子第三小学校の2校で設計を行っていく予定です。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

令和9年度以降につきましては、技術職員の配置状況を考慮しながら、より多くの学校の設計を行い、できる限り速やかに小学校全校の体育館に空調設備を設置していきたいと考えています。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。菊地統生涯学習部長。

〔説明員菊地統君登壇〕

○説明員（菊地統君） 私からは、（3）についてお答えいたします。

『暗夜行路』の草稿を託された小熊太郎吉は、明治7年に当時の岡発戸村に生まれ、明治35年に小学校の校長を退職後、昭和18年に亡くなるまで現在の本町2丁目で剥製屋を営み、剥製、標本製作に携わった人物でございます。これまで杉村楚人冠のエッセイ『湖畔吟』に登場し、以前より存在が知られていた人物でしたが、今回、発見された『暗夜行路』の草稿や自作のスクラップブック、雑誌などにより、志賀直哉と柳宗悦との交流が明らかとなりました。

このことから、教育委員会では、今年度、市制施行55周年記念事業として、白樺文学館で「『暗夜行路』の軌跡」展を開催して草稿の解説展示を行い、専門家を呼んで市民向けの講演会を行いました。あわせて鳥の博物館でも小熊氏が採集した鳥の剥製などを特別展示いたしました。

この『暗夜行路』の草稿は経年劣化が進んでおり、市としては大切な資料を後世に残すため、令和8年度に修復、レプリカを作成することを目的にクラウドファンディングを計画しております。クラウドファンディングは全国的に資料をアピールするチャンスにもなります。また、レプリカを作成することで長期間の展示も可能となります。様々な事業を絡めて、今後も小熊氏と白樺派の深い結びつきについて積極的に広報していきたいというふうに考えております。

また、小熊家より市に寄贈された資料は約500点を数え、書籍、書簡、切り抜きのスクラップブック、手製の雑誌、標本類とその製作道具など多様なもので構成され、その一部を調べただけでも、小熊氏が自然科学、文芸、教育、歴史などに幅広く関心を持ち、我孫子の近代を代表する地元の知識人、教養人であることが分かりました。そのほかにも地域振興のため、香取神社や八坂神社の運営への参画や、戦前の我孫子町会議員としても活躍した多様な側面のある人物であることも分かってきました。

引き続き、資料の調査研究を行うことによって、白樺派と我孫子の人々の関わりにとどまらず、我孫子市の近代史に歴史の1ページを加える可能性もあると考えております。今後、専門家を交えて調査研究を重ね、その成果は白樺文学館、杉村楚人冠記念館、鳥の博物館の3館合同企画展などを通じて、広く市民にアピールしていきたいというふうに考えております。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

〔坂巻宗男君登壇〕

○坂巻宗男君 御答弁、ありがとうございました。

まず、市長のほうに、いわゆる小学校の体育館ということで御答弁いただきましたけれども、市

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

長のほうもできるだけ速やかに設置をしたいというふうなことで、多分、いわゆる技師の関係がクリアできればということだろうとは思いますが、これ、今の段階で、例えば目標年度とか、ある程度、このぐらいまでにはというのはあるのか、そこまで、ちょっとそれこそ、今、まさにその辺が検討中の状況なのか、そこを1点、お聞かせいただければというふうに思います。まず、この点だけ再質問させていただきます。お願いします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星野順一郎市長。

○市長（星野順一郎君） 坂巻議員、御指摘のように、私も今のペースでいくと、あと10校、2校ずつだと5年かかってしまう、工事費も入れると1年生が6年生あるいは卒業してしまうというペースになりますので、そこはあまりにも公平性に欠けるなというふうには認識をしています。

ただ、御存じのように、今、建築技師と土木技師が圧倒的に足りないという現状でありまして、そして、その技師たちは、湖北小の体育館、それと五本松の運動場、それと湖北消防署と3つの大きな工場を抱えて、皆さん、兼務で頑張ってくれています。

ただ、私も我孫子の子どもたちのために頑張れと声をかけて、それに応えてくれている技師たちには申し訳ないんですけども、そこを何とかクリアをしていかないと、このスピードアップというのは、なかなか、これ以上は厳しい状況にあるなというふうには実感をしました。

今年も、実際は新年度予算を編成するとき、3校何とかできないのかといったときに、さすがに2校までで、これ以上は厳しいという返事を聞きましたので、今回は2校だけの設計にとどめさせていただいていますけれども、令和9年度にはその3つの大きな事業が終わりますので、令和9年度からももう少しスピードアップができるんだろうというふうには認識しています。

それで今、少し現状の技師たちの軽減が図られた中での配置と、それと併せて今年もそうですけども、6月、9月、12月と年3回、職員の募集をして、特に、建築・土木を中心に、不足する専門職の採用は12月に3回目もやったという形ですが、なかなか募集しても応募がなかったり、あるいは採用に至らないだけの人数しか応募がなかったとかという現状があります。これは、近隣の市あるいは県庁も含めて、民間もあちらこちらで同じような状況を聞いている中では、本当に人の取り合いになっているという現状の中では、何とか技師の確保をしながら、それに応じたスピードアップをしていきたいなというふうには思っています。

そして、今回、子ども議会でも要望があったように、子どもたちの声に応えていけるように、そして、それはひいては、その周辺の人たちも小学校の体育館を利用しているスポーツ団体もありますし、また、災害の時には避難所になるということも踏まえると、なるべくスピードアップをしていきたいという思いはありますけれども、残念ながら特に技師の数が圧倒的に少ない、その建築・土木の2分野については、目標というところが示せるまでの現状には至っていないという状況ですが、答弁を聞いてお分かりのように、子どもたちのために頑張っていきたいというのが、今のところの

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

正直な気持ちです。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

[坂巻宗男君登壇]

○坂巻宗男君 市長、ありがとうございました。

恐らく市長の思いもそうですし、我々議員も皆さん、できるだけ早く設置してもらいたいと思っていますから、そういった意味でいろんな工夫をしていただいて、子ども議会で市長が厳しい追及を受けることのないように工夫をしていただきたいと思います。逆に、子ども議会、頑張っていて、みたいなどころもあるかもしれません。

そうしたら、教育委員会のほうなんです、部活動の地域展開で、今、まさに2年目になっている。いろいろやって、課題整理などに入ってきていて、我孫子はもう来年度9月から全体でやっということなので、その方針は方針で、もう定まったということであれば、やはりそこに向けてしっかりと説明をしていく、丁寧に行っていく、生徒・保護者の方々の理解を得てやっということだと思っうんですね。

やっぱりそういう中で一つ気になるのは、やはり負担ですよ。先ほど2,500円ぐらいということが一つの目安として示されたところなんです、多分、近隣含めておむねそれぐらいになってくるのかなというふうに思っうんですが、その辺の保護者の負担に対しては、このぐらいですよ。というような説明などは、先ほどの説明のスケジュール、3月、4月、6月、6月で参加者募集ですか、だからこのぐらいになるのか、あるいはその前などになるのか、そういったところはいつ頃になってくるのか、お聞かせいただけますでしょうか。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。丸智彦教育長。

○説明員（丸智彦君） 実際の保護者の負担というところに関しましては、これまでも、実際、幅を持たせて、国のほうとしては1,000円から3,000円という話になっていて、実際に柏市じゃどうだったとか、そういった説明はしております。ですから大体2,000円から3,000円の間だろうということは保護者も大体は分かっているかなと思っっています。

今後に関しましては、3月の保護者説明会、それから3月16日号の「広報あびこ」の中でも、たしか部活動の地域展開に関しては出ると思っうんですけども、その中に額が出ていたか私、ちょっとはっきり覚えていないんですけども、その辺も含めてこの辺は広報をしっかりとしていきたいなというふうに思っっています。

あと、課題に関しては、やはり、子どもたち、保護者への説明プラスあとは管理運営団体をお願いするスポーツ協会のほうとも綿密な意見交換等をしていきたいなというふうに思っっています。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

[坂巻宗男君登壇]

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○坂巻宗男君 ぜひ、いろいろな形で、当然、3月、4月になってくればPTA総会なども開かれてくるというふうなところもありますし、今、考えているスケジュール以外にも説明する場等々あると思いますので、お願いをしたいと思います。

私など2,500円がいいかどうか、いろんな議論が出てくると思うんですけど、今回、小学校は給食費が無償化になりましたよね。だから、うまく中学校の給食費などと相殺できたりすると負担は和らぐなどか思ったりもします。

だから、例えば、今回、ここで2,500円払わなくちゃいけないけれども、こちらのほうで何かやりようがあるとか、そういうこともあるのかもしれないから、そういう意味でのちょっとトータルのにも学校教育のほうでいろいろと、いわゆる経済的な負担という意味で。先ほどそもそも経済的に厳しい方はそういったものは取りませんよというお話あった、それはそれでいいと思うんですけども。ぜひ、そういったことも含めて、トータルで考えられるようにしていただきたいというふうに思います。

それから、小熊太郎吉さんなんですけれども、時間のない中で何なんですけれども、今回、会派でもいろいろ代表質問をやる中で、早川議員も質問するから質問時間が50分になっちゃいましてね、短いからどっか削ったらいんじゃないかって、この太郎吉さんを削ったらどうだなんて議論が会派の中でもあったんですが、駄目だと、これは。小熊太郎吉さんこそやらずにいいよということ、今日のメインだと話をしてやりました。

だけど、先ほどもお話があったんだけど、私も白樺文学館で太郎吉さんのお話を聞いたら、すごい方だったんだというのが分かって、お話もあったように我孫子町の議員をやられたていたから、我々のある意味では先輩みたいなどころもあるんですね。信頼感があるから志賀直哉さんが草稿を預ける。私なんかせいぜい草稿なんて言ったところで、早川議員の質問の原稿をもらうぐらいで、全く価値が違うという話なんですけれどもね。

それはともかくとして、志賀直哉の草稿は文学的な意味ですごい意味があると思うんだけど、実は我孫子市にとってみると、あの小熊太郎吉さんの研究が、また、我孫子というまちにとってみるとすごい価値のあることのような気がしたんですね、私もお話を伺って。だからぜひ、今、菊地部長のほうから御答弁もありましたけれども、これからもこの部分、志賀さんと常にセットになるかもしれないけれども、小熊さんは小熊さんで、ぜひ、いい意味で突き詰めていっていただきたいなと思います。この点、御答弁、お願いできればと思います。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。菊地統生涯学習部長。

○説明員（菊地統君） これまでの志賀直哉像ということ、いろんな全国的にも、それを解析している中で、我孫子市との交流ということでは、たしか20年前ぐらいに文化を守る会、市民団体の方々も、志賀直哉と柳宗悦が地元の小学校の卒業式に参加して、直筆のサインを成績優秀者のほ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

うに辞典として贈ったというようなものがあったり、地元の小学校での講演会なんかもあったということで、決して一部では志賀自体が、像とすれば学習院時代の友人であるとか文化人、画家とか陶芸家などのそういったような方々としか交流してなかったような形で捉えられているところもあったんですが、今回の草稿が発見されたことで、志賀のいわゆる交友関係の中でも、我孫子の住民の方々との交流があった痕跡、これは志賀の像そのもの自体を大きく覆すようなものでもあったのではないかなというふうに考えております。

ただ、小熊太郎吉さんのいろんな資料については、まだ、500点ぐらいありまして、それは白樺派に関することだけではないんですけども、いろんなものがあるって、それを解析するには少しお時間をいただいているところだとは思んですけども、中にはちょっと面白いものがありまして、志賀の直筆の、今回の草稿とは別な形のものが出てきたりとか、そうだろうと思われるものが。それが誰に贈ったものなのか、なぜ、小熊が持っていたのかとか、そういったことも含めて専門家の生井先生とかにも意見を聞きながら、今後、解析していきながら、市民の方にも十分、地元の志賀と小熊の話もできればいいかなと思っていますし、先ほども説明しましたが、これまでクローズアップされてなかった小熊太郎吉。それが教養人であり、文化人でもあり、いろんな形で同人誌みたいなサロンなんかを開いていた、そういったようなこともいろんな資料の中で分かってきて、当時の我孫子市の情勢、そういったようなものも事細かく記録されていたようなものがあると。そういったものを解き明かすことによって、我孫子市としてもとても大事な人であるということ、ぜひ、PRしていきたいというふうに考えております。そういう形で実施していきたいと思っております。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

[坂巻宗男君登壇]

○坂巻宗男君 ありがとうございます。ぜひ、お願いしたいと思います。

そうしましたら、大綱の3点目に移ります。子ども・高齢者・障害者福祉についてであります。

1点目は、第10期介護保険事業計画です。

令和9年度からの第10期介護保険事業計画の策定作業が行われています。現在はアンケート調査などの分析に入っていると思いますが、まずはその策定スケジュールについてお聞かせください。特に介護保険料の改定の場合は議会での議決になりますため、議会との情報共有も含め、お答えください。

次に、現在の第9期事業計画の評価として、重点事業などの進捗状況をお聞かせください。

最後に、第10期の計画の中で特に進めようとしている事業など、現時点での第10期計画の特色についてお聞かせください。

2点目は、子ども食堂の運営についてです。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

子ども食堂は、全国的にも増加傾向にあり、認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえの調べでは、全国の子ども食堂は現在1万2,000か所を超えています。推計の年間延べ利用者数は2,533万人で、そのうち子どもが1,732万人とのことです。この1年でも1,700か所が増えているとのことで、子ども食堂に大きな需要があることが分かります。一方で、物価高や人手不足を理由に閉鎖する食堂もあり、全国的な課題になっています。

我孫子市では、現在、13か所の子ども食堂が運営をされ、そのほとんどは月に1回の運営となっていますが、中には毎日のように運営をしてくれている事業者の方もいます。また、高齢の方や障害の方も含めて対象としているところもあり、地域での大切な居場所となっています。

これからも我孫子市で子ども食堂がさらに発展していくためには、市としても社会福祉協議会や子ども食堂ネットワークと連携を強化して、運営者や利用者の声を生かしていく必要があります。我孫子市として、現在の子ども食堂の課題をどのように認識し対応していくのか、お聞かせください。

3点目です。障害者グループホームの運営についてであります。

全国的に障害者グループホームでの不適切な運営などが問題になる中、柏市で障害者が亡くなるという大変痛ましい事件が起きてしまいました。グループホームという障害者の方が生活する環境は閉鎖的な空間にもなりやすく、自ら訴えることができない障害者の方に虐待などがある場合は、関係する機関や職員が何か変だなという異変にいち早く気づき、連携を取りながら対処をしていく必要があります。

そのような中で、今年度からグループホームでの地域連携推進会議が義務化され、年1回以上の開催が必要となりました。我孫子市での地域連携推進会議の開催状況、構成メンバー、会議で挙げた課題などについてお聞かせください。

あわせて、我孫子市での障害者グループホームの現在の整備状況と今後の方針についてもお聞かせください。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。飯田秀勝健康福祉部長。

〔説明員飯田秀勝君登壇〕

○説明員（飯田秀勝君） 私からは、（1）と（3）についてお答えします。

初めに、（1）についてお答えします。

第10期介護保険事業計画の策定スケジュールについては、令和7年11月から令和8年3月まで計画策定の基礎資料とするためのアンケートの調査集計を実施し、4月頃に国から計画に関する基本的考え方の提示を受け、高齢者施策の取り組み状況と課題を分析します。

8月頃に国から基本指針案の提示を受け、計画骨子案の作成及び重点施策の検討を行い、10月から11月頃に介護サービス量等の見込みの算出と介護保険料の試算を行います。12月から令和

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

9年1月頃まで、計画書と介護保険料に関するパブリックコメントを実施し、3月までに計画の策定を完了する予定です。

なお、国の第1号保険料の算定に必要な諸係数の確定が例年12月であることから、介護保険料の改定の場合の議会との情報共有については、令和9年2月の教育福祉常任委員会勉強会を予定し、3月議会で議案を上程する予定です。

第9期事業計画の評価として、重点事業などの進捗状況については、重点施策1、中長期的な視点での介護サービス基盤の整備では、施設等整備方針に基づき、令和7年7月に医療と介護双方のニーズを有する要介護高齢者の長期療養・生活のための施設である介護医療院、11月に在宅生活を支えるための定期巡回・随時対応型訪問介護看護が開設となり、目標を達成しました。さらに、介護つき有料老人ホーム、認知症対応型共同生活介護及び認知症対応型通所介護については、令和8年度中に整備予定です。

重点施策2、地域包括ケアシステムの深化・推進と地域共生社会の実現では、高齢者虐待、認知症、生活困窮、8050問題など複合的な課題を抱えた相談が多く支援困難事例への対応について、様々な関係機関との連携を一層強化し、チーム支援を実施しました。また、相談につながりづらい高齢者の早期発見、早期介入に努めてきました。

今後も、引き続き、総合相談支援を実施して、様々な困りごとに寄り添った対応を行うとともに、高齢者の虐待対応について、専門職や市民の理解が広がるよう取り組んでいきます。

重点施策3、介護予防と健康づくりの施策の充実・推進では、市民講演会の開催や出前講座により知識の普及啓発を実施し、通いの場へ理学療法士を派遣し、高齢者が主体的に介護予防に取り組めるよう環境づくりを整備しました。

重点施策4、認知症施策の推進では、新しい認知症観の普及啓発を実施するとともに、認知症の人や家族の相談に適切に対応し、必要な医療、介護、生活支援サービス等の情報提供や認知症に関する正しい理解を進め、認知症の方を支えるつながりづくりの支援を行いました。

重点施策5、介護人材の確保及び業務効率化の推進では、今後、さらに深刻化が見込まれる介護人材不足に対処するため、イベントの開催、キャリアアップのための資格取得支援など、様々な取り組みを通じて介護人材の確保、育成に努めました。

現時点での第10期計画の特色としては、地域において目指すべき共生社会の在り方を検討、議論し、地域での実態や課題に即した認知症施策を推進していくため、共生社会の実現を推進するための認知症基本法に基づく我孫子市の認知症施策推進計画を包含して策定する予定です。

次に、（3）についてお答えします。

地域連携推進会議の義務化に際し、市では我孫子市地域連携推進会議の手引きを作成し、昨年度の集団指導の際、事業者に対し周知を図りました。現時点において、今年度、開催が義務づけられ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

た20か所全てのグループホームにおいて会議が開催されています。

会議の構成員は、利用者やその家族、地域住民、民生委員、自治会長などの地域の関係者を必須とし、障害者まちかど相談室の相談員、グループホーム支援ワーカー、我孫子市グループホーム連絡会会員、障害者支援課職員などから地域の実情に合わせて柔軟に選出できます。

会議では、権利擁護や虐待防止の意識向上、地域との顔の見える関係づくり、防災、緊急時の対応強化などが主な課題として挙げられています。

グループホームの整備状況については、令和8年2月1日に定員7名の日中サービス支援型グループホームが開所し、現在、市内には24か所、総定員293名のグループホームが整備されています。さらに、令和9年度には新たな日中サービス支援型のグループホームの開設も予定されています。グループホームのサービスの質の低下が生じないように、市としても県と連携し、引き続き、丁寧な実地指導に努めていきます。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星範之子ども部長。

〔説明員星範之君登壇〕

○説明員（星範之君） 私からは、（2）についてお答えします。

市内にある13か所の子ども食堂の利用対象者は運営団体により異なりますが、子どもから高齢者まで広く参加できる場となっており、食事の提供以外に各種イベントも開催され、居場所としても機能しています。

また、子ども食堂運営団体と我孫子市、我孫子市社会福祉協議会、民間企業等で構成する我孫子市子ども食堂ネットワークでは、2か月に1回ネットワーク会議を開催し、寄付品や助成金についての情報提供や課題の共有などを行っています。会議では、多くの子ども食堂がボランティアで運営されているため、無理のない範囲で長期的に活動を継続していくことを念頭に置きつつ、現在は月1回程度の開催となっている中で、本当に必要な世帯や支援が届いているかどうかということが課題として挙げられています。

市としてもこの視点を重要と認識しており、各運営団体が無理なく活動を継続しつつ、子ども食堂の利用機会を増やすためには、ボランティアや企業等、子ども食堂の運営に関心を持つ人材を増やし、新たな子ども食堂の立ち上げが重要であると考えています。今後も社会福祉協議会と連携し、ボランティアや企業等への活動のPRや子ども食堂の立ち上げ支援を積極的に行っていきます。

さらに、物価高の影響による寄付品の減少が運営面での不安材料となっていることも、活動継続の課題として挙げられています。ネットワークに参加している市が中心となり、社会福祉協議会とともに協力団体や企業等との効果的な連携策を検討してまいります。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

〔坂巻宗男君登壇〕

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○坂巻宗男君 御答弁、ありがとうございます。

まず、介護保険ですけれども、今、まさに市民アンケートの取りまとめが終わって集計作業に入っていると言えいいんでしょうか。この間、第2回目の市民会議も行われて、その資料なども頂いたところでありますけれども、本当に大勢の方からのいろんな意見がアンケートという形で載っていました。

例えば介護保険料などについて見てみると、高くてもサービスが充実するほうがいいという意見であったりとか、そこら辺のバランスが、ある程度、取れていけばいいということであったりとか、一方で、やっぱり保険料は少ないほうがいいという意見、そこら辺はいろんな意見があるんだけど、そういった声も、当然、参考にしながら保険料など算定していくというふうなことになると思うんですね。係数がまだ出てきていないから何とも言えないところだと思いますけれども。やっぱり介護のこれからのそれこそ持続可能性などを考えると、人材をどう確保していくのかというようなこととも連携してくる話になってきますね、この保険料などは。

本当は私も人材のほうに入ろうかと思っていたところなんですけど、今回、早川議員が同じ会派で個人質問されますので、その人材の部分は触れないんですけど、今後、保険料などの改定はやるを得ない部分もあろうかと思えますけれども、その辺は、ぜひ丁寧に説明をしていっていただきたいと思っています。これはまだ、明確になりませんから答弁は結構なんですけど。

1点、第10期の方針としては、例えばいわゆる施設整備などの関係で、第9期などではいろいろ認知症のグループホーム等々を整備したり、あるいは介護医療院などができたりとかいうところあるわけなんですけど、第10期の中で、今の段階で何か整備予定のようなものがあるのか、その辺はいかがなのかというのをお聞かせいただければというふうに思います。特養など含めて。というのが介護のほうの1点です。

同じく障害者グループホームの関係については、今年から地域連携推進会議というところが開催され、今のお話だと20か所全てで行われているよということだったんですけども、今年度で24か所というお話も一方ではあったと思うんですけど、ここの4か所分というのはどういうふうな状況なのか、ちょっとお聞かせいただけますか。それと、これは非常に重要な会議だというふうに思っているんですけども、1回以上というふうなお話だと思うんですね。

もちろん、いろんな関係性があるって、そんな頻繁には開けないとは思いますが、柏のああいう痛ましい事件などを踏まえたときに、やっぱり地域の方々の理解を得ながら障害者の方々が地域で暮らしていく、生活していく、そういう連携が取れているということが、やっぱりああいう事件を防ぐ手だてにもなるんだろうと思うんですね、間接的な意味で。

ですから、こういう連携会議などを年に1回ではあるんですけども、もう少し回数として行っていくよということもあっていいと思いますし、こういったもの以外に、また、地域などに、より

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

開かれた形で、ここからさらに一歩進めてこういったイベントなどやっていますよとか、いろんなそういう動きなども出てくるかなと思うんで、ぜひ、そういったところの支援もお願いしたいと思うんですが。

質問としては先ほどの24か所の4か所分についてはどうなのかということと、運営会議そのものが年に1回ということの中で、1回以上というのかな、2回以上開催しているところも実際にはあるのか、その辺についてお答えいただけますでしょうか。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。飯田秀勝健康福祉部長。

○説明員（飯田秀勝君） まず、1点目、介護保険の事業計画、次期中で施設整備することが明確に決まっているものがあるかということなんですけども、こちらは、まだそういった大型の施設とかを計画しているということはありません。

この間、介護保険市民会議では、集計ができたアンケート2つだったかな、その分、市民会議でも提示したんですが、そのほかにも事業所の勤めている人のアンケートとか、入所している方のアンケートとか、そういうのもちょっとまだ集計途中でしたので、そういうのも分析しながら、あと例えば特養であれば待機者の状況とか、そういうのも把握しながら、また、次期計画のほうに盛り込んでいくような形になります。

それから障害者のグループホーム。確かに柏市で、この間、直近ですよ、事件が起きまして、私も痛ましい事件だと感じたんですけども、こちらやっぱりグループホームは開かれたことが、いろんな人がそこに入ることで、その回数も多くなればなるほどちょっと変だなという、そういう違和感とかも感じるができると思うんです。

24か所のうち4か所は、まだ、開設から1年たってなかったもので、それが順次、また、経過すれば実施していくような形で。今回は初めてだったので、障害者支援課の職員が20か所全て、そこに参加しております。今後も障害者支援課の職員、できるだけ行けるときに、そこは頻繁に参加して様子を確認したいなということだと思っています。

それから、1回以上です。当然、これも本当に回数多ければ多いほど望ましいんですけども、施設の負担などもあるんですけども、そういったことはあるんですが、市としてはできるだけ多く実施するように指導していきたいなと思っています。

それから、あと別で、市の職員が3年に1回のペースで実地指導に行っているんですけども、質の確保とか向上とかの面では、3年に1回と言わず、こちらも本当はもっと行きたいんですが、まだ、そこら辺は人員的な部分とかもあるんですけども、そういったものに力を入れていきたいと考えています。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

〔坂巻宗男君登壇〕

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○坂巻宗男君 ぜひ、いろいろな形でお願いしたいと思います。

ちょっと福祉の関係に関しましては、私も所管の常任委員会で、また継続的に議論できますので、再質問はここまでとさせていただきます、最後の環境・都市行政のほうに移りたいと思います。

まず1点目が我孫子新田の土地利用についてであります。

我孫子新田の温浴施設の住民説明会が先日ありまして、私も参加をしてきました。住民の方50名弱ぐらいが参加しており、様々な疑問や要望が出されました。総じて建設反対という雰囲気ではありませんでしたけれども、やはり、今までにはない建物が手賀沼の前に出来、大きく環境が変わる住民の方もいるわけで、事業者にはできる限り住民の要望に答えてもらいたいと思っています。

会場での質疑では、下水道や排水の問題、建物の後背地での日照の問題、白山側からの眺望の問題、手賀沼側からの景観の問題、手賀沼ふれあいライン歩道と温浴施設の距離・空間の問題や駐車場の緑化、交通渋滞、地盤沈下の心配などなど、多岐にわたる項目が出されていました。

まずは、今後のスケジュールについて、事業者からの説明会の報告や市との協議、現段階での建設までの期間などをお聞かせください。

また、市では今回の説明会での住民要望などをどの程度把握できているのか、そして、そのような住民の声について事業者側にどのような姿勢で臨んでいくのか、お聞かせください。

この説明会の中で、事業者側はプロジェクターでの説明を行い、紙の資料を配付していません。すみません、これちょっと私、発言通告をつくって出して、その後に事業者側がこの説明会の報告を市にも行い、出席者にも行ったというところがあるので、ちょっと質問詳細と今の状況がずれているところもあると思うんですが、詳細のまま、読み上げますので御答弁をお願いします。紙の資料を配付していません。これについては大変分かりにくく、参加した方からも資料配付の意見が出されていました。私もそのとおりでろうと思います。

事業者側にできる限り、地域住民には分かりやすい資料を提示するように、市として指導すべきと考えますが、お答えください。

次に、2点目のリサイクルセンターの整備についてであります。

2月に開催されたりサイクルセンター整備の環境都市常任委員会での勉強会資料では、建設費が120億円、20年間の運営費が100億円程度との試算が示されました。物価高が続く状況の中で、建設費、運営費ともにさらに増加しています。そもそもリサイクルセンター整備計画では、令和8年4月にはリサイクルセンターが稼働するスケジュールになっており、物価高の中で後ろ倒しになるほど予算が増加してしまう状況が明らかとなっています。現実的な対応としては、事業費を厳しく精査すること、競争性の発揮される入札を実施することが今後のポイントと言わざるを得ません。特に焼却炉の建て替えでは、入札により40億円もの建設費と30億円もの運営費を削減したことを踏まえれば、応札業者をできる限り増やし、競争性を担保する必要があります。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

ここでの質問の1点目は、市ではどのように応札業者を増やし、競争性を担保しようとしているのか、お聞かせください。

2点目として、見積り段階で整備費を削ることが可能な項目が存在するのか、あるとすればどこで、どれぐらいの予算を見込めるのか、お聞かせください。

3点目として、同様に20年間の運営費の中で、増える可能性があるリスクは何なのか、逆に減らせる項目は何なのか、お示してください。

続きまして3点目の下水道・排水路の緊急点検についてであります。

八潮市での下水道管破損事故を受けて、全国で調査が始まった特別重点調査では、我孫子市の対象9管路2.7キロ中6管路で緊急度Ⅰ及びⅡの判定がありました。これは全て下水道ではなくて、いわゆる排水路になっておりますけれども、雨水ですね。緊急度Ⅰの要対策延長は114メートル、緊急度Ⅱの要対策延長は151メートルとなっています。市ではその後、この緊急度Ⅰ・Ⅱの箇所ですら空洞調査を行い、6か所で道路の空洞を確認し、補修作業を行っているとのことですが、この経緯と対応状況について、まず、お聞かせください。

また、道路の空洞化とは別に、管路そのものの補修の必要性もあると考えますが、この点については、今後、どのように進めるのか、お聞かせください。

また、千葉県流域下水道については、五本松公園から湖北台にかけて緊急度Ⅰの報告がなされ、その後、暫定対策工事設計業務が委託をされ、2月にその期限を迎えると聞いていますが、その結果は既に出ているのか、そして、対策工事はどのように行われるのか、お聞かせください。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

〔説明員大井一郎君登壇〕

○説明員（大井一郎君） 私からは、（１）、（２）についてお答えします。

初めに、（１）についてお答えします。

1月31日に活用事業者が開催した住民説明会には45名の参加があり、多岐にわたる御質問があった旨の報告を受けています。その中で出た資料配付の意見については、活用事業者において事業地から50メートル以内の説明対象範囲内の方及び対象範囲外で当日参加された皆様に、議事録や質疑に対する回答書を含めプロジェクターで投影した計画概要、全体配置図、各種立面図を2月26日にお届けしたと伺っております。

今後のスケジュールについては、活用事業者からの申出により、商業観光課と観光施設の立地に関する協議を行いますが、この中で周辺住民説明会での意見や要望とその対応についての報告を求めており、活用事業者の計画が手賀沼観光施設誘導方針や協議基準、協議要領に適合しているかを協議するとともに、事業者への可能な限りの配慮も求めていきます。

活用事業者のスケジュールでは、今年8月に工事着手し、令和10年1月の工事完了を見込んで

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

いますが、工事着手は商業観光課との協議、協議完了後の開発行為の手続が必要となることから、引き続き、活用事業者と連絡を取り合い、事業を進めていきます。

次に、（２）についてお答えします。

まず、１点目についてお答えします。

リサイクルセンターなどの一般廃棄物処理施設の整備は、対応が可能なプラントメーカーが限られています。入札参加要件を検討するに当たり、他自治体が平成31年度以降に発注した資源化施設の実績を調査したところ、我孫子市の計画処理量と同等以上の案件を受注したプラントメーカーは12者、確認できました。そのうち我孫子市の入札参加資格名簿に登録がある業者は7者であったため、その全てが入札に参加できる資格要件とする方向で検討を進めています。

次に、２点目についてお答えします。

令和7年10月にプラントメーカー5者へ見積りを依頼した段階では、リサイクルセンター内に市職員諸室、見学者設備及び太陽光発電設備なども整備内容に含まれていました。しかし、見積結果が想定以上に高額であったことから、ごみ処理に直接関係ない設備を削除するよう精査を進めています。また、要求水準書の見直しを含め、可能な限り整備費用を低減できるよう検討を進めています。

最後に、３点目についてお答えします。

運營業務委託費については整備費用とは異なり、国庫補助金や起債などの特定財源を充当することができないことから、可能な限り費用の低減ができるよう運營業務委託内容の精査を行っているところです。

また、リサイクルセンターの運營業務は、新クリーンセンターと同様に20年間の委託契約となるため、物価変動を考慮した契約内容とする予定です。そのため、物価変動の度合いにより、各年度の運營業務委託費用が増減するリスクがあるものと考えています。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。海老原正建設部長。

〔説明員海老原正君登壇〕

○説明員（海老原正君） 私からは、（３）についてお答えします。

埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故を受け、令和7年3月18日、国から全国特別重点調査の要請がありました。市の調査対象施設である雨水管のうち、9幹線2,786メートルについて、8月から管路内の目視調査を行いました。専門家による判定結果は、緊急度Ⅰの要対策延長が114メートル、緊急度Ⅱの要対策延長が151メートルであり、12月15日に報道発表と併せて市ホームページに公表しました。

緊急度Ⅰ及びⅡの要対策延長を含む6幹線2,430メートルについて、12月から地中レーダ探査による道路下の空洞調査を行いました。解析の結果、5幹線6か所において空洞の疑いがあつ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

たことから、2月に試掘調査を行い、空洞が確認された箇所は速やかに安全対策を講じました。

これまで行った管路内目視調査、空洞調査、試掘調査をもって要請を受けた全国特別重点調査が完了しましたので、国へ調査結果を報告しました。なお、公表については、国・県と調整して速やかに行っていきます。

管路の補修については、破損やクラックの補修を1月より行っているところです。また、浸入水などに係る補修には多額の費用を要し、速やかな対応が困難であるため、令和8年度のストックマネジメント計画第Ⅱ期において対策を検討していきます。今後も国からの情報、財源を有効に活用し、必要な対策を進めていきます。

次に、千葉県の流域下水道について、県で実施している暫定対策工事設計業務は、追加のボーリング調査を実施したため、工期を3月25日まで延長したとのことです。現在までの調査では、道路下の空洞は確認されておらず、追加調査の結果も踏まえ、対策方針を検討するとのことです。市としましても、今後も県と情報共有するとともに、対策方針が決定され次第、速やかに情報提供いただくよう要請していきます。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

〔坂巻宗男君登壇〕

○坂巻宗男君 まず、我孫子新田の土地利用についてなんですが、今、お話がありましたように、説明会をやって、その後、当時、プロジェクターで説明されただけで、住民からも資料が紙で配付されないのはおかしいじゃないかというふうなことで、分かりづらいというふうなお話があった中で、先日、事業者側がそれも踏まえて、回答とともに資料も図面なども配付されまして、私も確認をいたしました。

まず、最初の答弁でもあったんですけども、住民の皆さんからの要望について報告書が出ているということもあるし、これから入っていく協議の中でも、住民の要望というふうなことといえますか、説明会の報告もしっかり改めて行うということだと思うので、その中で住民要望というものがどういうものがあるのかということをも市のほうもしっかりと把握をして、ぜひ、それに対して事業者側にできる限り、答弁の中にもありましたけれども、そういったものに沿えるように、計画がある意味で柔軟に変更していく、そういうことを要請していただきたい。もう一度、これ、御答弁をお願いしたいというふうに思います。

中に出ていたことでいろいろと、例えば駐車場を緑化したらどうかとか、こういうのって比較的できやすいのかなとか、環境にもいいなというふうなところの意見などもあったし、私もそのとおりだろうなと思って聞いていました。

一方で、比較的大きな課題かなと私なども思っているのが、今の新しくできる建物が12メートルの高さになっていて、これがその部分というのは、道路から25メートルの範囲でそういったも

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

のが建てられるということになっているんですよ。

どうも、この間配られた図面のスケールを私が見た限りでは、この25メートルいっぱいいっばいいっばいを必ずしも今までは使っていないで、例えば、もう少し北側に寄せられる余地があるのかなというふうにも感じました。ちょっとそこは、この図面だけでは判断できないのかもしれないんですが、そういうことができると、住民の皆さんからの意見で出ていたのが、例えば手賀沼ふれあいラインの歩道から建物が近過ぎて圧迫感がないとか、手賀沼側からの見え方がどうかというようなことに対して、例えば南側が空間を広く取れば、そういったものを少しでもクリアできるという話になるかもしれない。それから白山側からの眺望というところでも気にしている方々が、当然いたんですが、そういったことも、もしかすると建物自体がもう少し北側にずれることで、眺望なども確保できる部分があるのかもしれない。ただ、もちろん、そうすると、今度、我孫子市新田に住んでいる方々にとっての影響はどうなるのか。我孫子市新田に住んでいる方からは、日照がどうなるのかなどの質問も出されていまして、当然、その辺の調整はしていかなくちゃいけないんだけど、やっぱりまだまだ詰めるべきところはたくさんあるんだろうと思うし、余地があるんだろうというふうに私は感じたんですね、そういった図面なども見たときに。

ですから、そういったところを、ぜひ、担当のほうでは丁寧に事業者側と協議をして、住民要望を酌み取っていただきたい。そういった意味での計画変更などの対応を求めていっていただきたいと思っておりますけれども、この点について御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

○説明員（大井一郎君） 確かに建物の北側に、25メートルの間に約3メートルぐらいスペースがあるんですけども、事業者から正式な申出があった段階で確認するんですけども、その3メートルのスペースの中に、商品の搬入のスペースとか、屋外機械室の点検などに使う通路などが入っていますので、その辺の移動ができるのかどうかということもあります。そういったこと等も含めまして、先ほどの答弁でありましたように、事業者への可能な限りの配慮を住民の意見等も踏まえて求めていきたいというふうに考えています。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

[坂巻宗男君登壇]

○坂巻宗男君 当然、今のこの図面だけでは分からないところがあるので、逆に言えばもしかしたらもっと動かせる大きな余地もあるのかもしれないから、ぜひ、その辺、適切に市民の皆さんの声を受け止めて対応していただきたいというふうに思っております。その件に関しては結構です。

あと、リサイクルセンターについてなんですけど、これから6月議会に向けて、また精査をしていくということで、詳しくは所管委員会などで議論されていくことになると思うんですが、入札の関係で言うと、前回のクリーンセンターで大きかった額がぐっと下がったことの要因の一つは、入札

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

の評価のときに、いわゆる技術点と価格部分、たしかこれ50・50の割合で対応したというふうに私は認識しているんですね。

そういったものが、やはり価格面にも大きく影響したのではないかというふうに感じています。ですから、そういったクリーンセンターの行ったまさにいいところというのを我孫子市は財産として持っているわけですから、そういったところも含めて、現在の予定価格とはまだ言えないと思いますけれども、そういったものが少しでも下げられるように精査していただきたい。

それから、もう一つ重要なのは、やっぱり運営費ですね。運営費を精査する、直営も含めて一部考えているところもあるのかもしれませんが、その辺も含めて、もう一度しっかりと運営費の部分を精査していただきたいと思いますが、この点について改めて御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

○説明員（大井一郎君） 入札の参加資格の緩和ということだと思います。

前回のときには、参加資格については、価格と技術点とか、その辺、当然、どのような形にしたらいいかというのは、今、まさにもんでいるところでございます。

あと、運営費のところにつきましても、どれぐらい安く人件費を抑えられるかということも、今、精査しているような段階になります。運営費については可能な限り、できるだけ下がるように、内容を精査している段階ですので、よろしくをお願いします。

○議長（日暮俊一君） 坂巻宗男議員。

〔坂巻宗男君登壇〕

○坂巻宗男君 あとは、環境都市常任委員会に委ねます。よろしくをお願いします。

以上で質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

○議長（日暮俊一君） 以上で坂巻宗男議員の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午前11時50分休憩

午後1時00分開議

○議長（日暮俊一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

市政に対する一般質問を許します。市民フォーラム代表佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 市民フォーラムの佐々木豊治でございます。

先般、イタリアで行われました冬季オリンピック大会におきまして、26個という輝かしいメダルを頂戴されたということは、日本人の国民の一人として感謝を申し上げる次第でございます。ありがとうございました。

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

なお一方、御案内のとおり、イランとイスラエルがありますね。そのような関係で行っていますが、世界経済に与える影響というものを私は大変心配しているんです。ですから一日も早く終結することを願いながら、思っている次第でございます。

それでは、通告に従いまして、大綱1の令和8年度の予算編成についてお尋ねいたします。

御案内のように、我が国の経済は雇用と所得環境の改善で、各種の政策効果が緩やかな回復傾向であります。昨今、物価高騰により個人消費に及ぼす影響などが景気を下押しするリスクとなっております。そのような状況の中、本市においては、子育て支援や障害者支援・生活保護費などの扶助費に加え、介護保険・後期高齢者医療特別会計の繰出金など、社会保障関係の経費が今後も増加することが見込まれた中で、特に物価上昇が財政状況に大きな影響をもたらしている状況の中、市民の皆様の要請に沿った持続可能な行政運営を推進していくための対策を講じながら、また、事業の見直しを図り、歳出の抑制に努め、歳入確保を図り、我孫子市が抱えている今日的な政策課題を実現するために努力されていると思いますが、いかがでしょうか。そこで、お尋ねいたします。

令和8年度の予算編成の方向性を拝見すると、現在、着手いたしておる湖北小学校体育館建設工事などや資源化施設整備など、また、公共施設の老朽化対策及びLED化の計画的推進など、多岐にわたり市民の皆様の要請に応えるために、非常に厳しい予算編成であったと私は認識いたしております。いかがでしょうか。

そこで、令和8年度予算の課題として、5項目にわたりお聞きいたしたいと思っております。

まず、(1)として、予算編成における収支の見通しとして、6億7,000万円の収支不足が見込まれておるが、どのような対応をされたのか、お尋ねいたします。

次に、(2)として、部局単位における歳出予算の枠配分を実施すると承っておりますが、どのような対応をされたのか。

次に、(3)として、物価高騰が続く中で、各部の政策状況に対してどのような対応をされたのか。

(4)として、業務の効率化について新たな事業手法があると思うが、その対策等についてお考えがあれば伺いたいと思っております。

(5)として、本市の厳しい予算編成の方針の中で、国の政策課題の一つに地方創生の推進があります。我孫子市として、多岐にわたる市民の皆様の要望の政策事業を実現するには、いかにして国のこの地方創生の政策を活用するかにかかっていると私は思いますが、いかがでしょうか。

そこで、お聞きいたしますが、多岐にわたる政策事業の中から、優先事業としてどのような事業の実施をお考えになっておるのか、お聞かせください。

また、そのような中で、国は総額12兆3,092億円の2026年度当初予算が、昨年12月26日に決定されました。また、先般、県は、1月29日に総額2兆2,534億8,700万

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

円の2026年度の一般会計当初予算を発表されましたが、しかしながら、御案内のように、26年度は税制改革に伴い282億円も税収減となるため、県政に与える影響は大きいと言われております。

そのような中で、我孫子市の一般会計当初予算案は、総額512億3,000万円と過去最大の当初予算額となっております。そこでお尋ねいたしますが、昨年と比較して3.7%、金額にして18億4,000万円の増額となっておりますが、その要因を教えてください。

また、予算編成に当たり、収支不足を埋めるため、財政調整基金から繰り入れたようでありますが、そこでお尋ねいたします。予算編成後の基金残高はどの程度になるか、お示してください。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員の質問に対する当局の答弁を求めます。中光啓子財政部長。

〔説明員中光啓子君登壇〕

○説明員（中光啓子君） 初めに、（1）についてお答えします。

経常的経費の収支不足は、人件費や扶助費の増加、物価高騰など社会経済環境の変化により歳出が増加する一方、市税や地方交付税をはじめとした歳入の増加が追いついていないことが要因と捉えています。経常的経費の収支は今後も厳しい状況が続くものと予測しており、収支不足の改善に向けて行政評価の当初予算への反映などを着実にやっていくとともに、それでもなお、収支の不足が生じる場合には、財政調整基金残高や決算の状況を踏まえた上で、限られた財源を最も有効に活用するという視点で事業の見直しを実施していきます。

次に、（2）についてお答えします。

経常的経費の収支不足を改善するため、令和7年度と令和8年度の当初予算編成においては、部局単位における枠配分の手法を導入しました。令和8年度当初予算編成における具体的な取り組みとしては、経常的経費の収支不足額である6億7,000万円のうち3億円について収支見通しにおける歳出予算規模に応じた削減目標額を各部局に割り振り、全庁を挙げて経費削減に取り組みました。

次に、（3）についてお答えします。

経常的収支から政策的事業の財源を生み出すことができない状況であることを踏まえ、政策的事業については、事業の必要性、市が実施する必要性、経費節減や財源確保の工夫などを考慮し、これまで以上に厳しい査定を実施しました。

一方で、厳しい財政状況が続く中でも、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを目指し、令和8年度から令和10年度までを期間とする第四次総合計画第3期実施計画の策定に向けた事業採択に応じた予算措置を行いました。

次に、（4）についてお答えします。

業務の効率化については、これまでもデジタル技術の活用や窓口開庁時間短縮の試験運用などに

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

取り組んできたところです。今後の取り組みとしては、マイナンバー業務における自動音声応答システムや文書管理システムの導入などについて検討を進めており、市民サービスの質を維持しながら、財政的な健全性の確保と職員の働きやすい環境づくりに寄与していきます。

最後に、（５）についてお答えします。

令和８年度の政策的事業については、市民生活に影響の大きいインフラ施設や公共施設の老朽化対策を適切に実施するとともに、消防車両の更新や小学校体育館及び給食施設への空調設備の設置など、安全・安心な環境を整備することなどを優先に事業を採択しました。

また、令和８年度当初予算総額が昨年度と比較し１８億４，０００万円増額した主な要因としては、事業の進捗による旧クリーンセンターの解体工事・土壌汚染対策工事費の増加や物価高騰対策の生活支援給付金事業の実施、障害者自立支援給付費の増加などによるものです。

なお、当初予算編成後の財政調整基金の残高は３３億２，３００万円となる見込みですが、普通交付税錯誤分の３億８，０００万円を加味すると、正味の残高は２９億４，３００万円となる見込みです。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 ありがとうございます。

いずれにいたしましても、先ほどの答弁だと、少し理解できないところがたくさんありますので、２点にわたりまして再質問をさせていただきます。

１点目としまして、我孫子市は国からの物価高騰対策としての地方創生臨時交付金を給食費や生活支援給付金として充てていると伺っておりますが、今後、ほかに検討している政策事業があれば、そのお考えをお示してください。

また、２点目として、市の財政調整基金の本来の目的は、災害緊急事態の対応のために備えるものであると私は理解いたしております。残念ながら、本来の使命を果たすことができないほど我孫子市の財政は厳しい状況であります。今後、財政調整基金の確保、維持のために対策があれば、お聞かせください。お願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。中光啓子財政部長。

○説明員（中光啓子君） 今後も国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金につきましては、生活者の負担軽減を最も優先としまして、特に、今後、見込まれる給食費の値上げですとか、水道料金の値上げを抑制するための補助的な対応として検討を進めていく予定にしております。引き続き、市民の暮らしを支えるための効果的で公平な用途について研究してまいります。

それから財政調整基金ですが、こちらのほうは、おっしゃるとおり災害対応ということで必要な金額を積み立ててまいります。現在は当初予算において、なかなか収支の均衡が取れておりません

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

ために、赤字部分を財政調整基金の取崩しで補填しているという状況でございます。政策的経費につきましても、財政調整基金に頼らざるを得ない状況になっておりますけれども、今後、厳しい財政状況が続く中におきましては、災害対応や突発的な支出に備えまして、最低限の財政調整基金、あるべき姿の標準財政規模の10%を確保しつつ、将来のいろいろな事業に備えまして基金の積立でもしっかり行っていきたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 分かりました。大変、御理解いただくような御答弁で、ありがとうございました。

いずれにいたしましても、平成8年度の当初予算案でございますので費用対効果を十分発揮されるよう、担当部局においてお願いする次第であります。お願い申し上げます。

次に、大綱2の我孫子市の生成AIについてお尋ねいたします。

御案内のように、今日の社会状況の変化の中、AIの課題について避けて通れない今日の政策課題業務の一つであると思います。特に我孫子市の効率化をより早く行うために、この生成AI活用をする動きが県内54市町村中、約6割に当たる34自治体が、市民サービスの向上のために、つまり、生成AI活用を導入し、業務の効率化を図っているようでございます。

御案内のように、県内で最も進んでいる船橋市では、2022年度から生成AIを本格的に導入し、今は、原稿をパソコンに入力すれば、生成AIが合成音声ながら自然に読み上げ、メールの文面作成や市議会からの質問の回答などに活用し、月平均約2,000時間ほどの削減につながったとのこととあります。聞くところによると、管理職を中心に使いたいという声が広がっておりまして、AIを活用することによって職員の皆さんの負担軽減につなげたいと、このように申されておりました。

もちろん、我孫子市においても、今日、独自の生成AIプロンプトを入力し、文書作成や様々な業務の対応に当たっておると思いますが、そこで、この生成AI活用を担当するデジタル戦略課として、業務においてよりよい効率化を図るために、現在、我孫子市としてどのような対応、対策を講じているか、まずもって、お尋ねいたします。

一方、この対策の導入に当たっては、本市の場合は、予算や人材確保、研修の課題などがあると思いますが、いずれにいたしましても、市民のサービスの向上につなげるために検討する今日的な政策課題ではないかと私はと思いますが、いかがでしょうか。お尋ねいたします。

一方、(2)として、教育分野の生成AIの活用についてお尋ねいたしたいと思います。

御案内のように、文部科学省にて、全国の小中学校の子どもたちに、1人1台タブレット端末機が配付され、各学校においてデジタル化教育としてGIGAスクール構想に基づいて本格的にスタートいたして5年目になりました。先般、全国の教育委員会を対象に、今日までのデジタル教科書、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

つまり、GIGAスクール構想についてのアンケート調査によると、様々な問題を抱えていることが分かったようであります。

例えば、デジタル教科書に伴い、文字を書く時間が減少することにより、作文の課題になると、長い文章を書くのが苦手な子どもたちが増えているということでもあります。

そこでお尋ねいたしますが、5年を経て、現在、我孫子市の子どもたちはいかがでしょうか。

いずれにいたしましても、手を動かして文字を書くことが脳の発達や思考の深まり、つまり、記憶力にもつながると言われております。したがって、デジタル教科書より紙のほうが優れていると、全国の小中学校校長を対象とした調査では95%の方が紙との併用を望み、つまり、デジタルのみの利用を懸念する声が圧倒的であったと言われております。

そこで、教育長にお尋ねいたしますが、文部科学省の作業部会は、従来の紙教科書とデジタル教科書の利用選択に関して、各教育委員会に委ねる方向性を示している中、我孫子市の子どもたちの将来を考え、二者択一とした場合、メリット、デメリットがあると思いますが、教育長として、どの選択を考えておられるのか、お考えがあれば幸いです。お願いいたします。

いずれにいたしましても、文部科学省の中央審議会の作業部会は、代替教材とされるデジタル教科書を正式な教科書に位置づけることを盛り込んだ内容を答申されたということでもあります。現場の先生方の声を聞いたにもかかわらず、答申されたことは私どもといたしまして、大変、残念であります。

そのようなことから、今年度中に改正し、使用開始は次期学習指導要領が実施される2030年度から使用することを見直すとのことでもあります。現在は御案内のように、デジタル教科書は小学校5年から中学校3年の英語と数学の一部に導入されております。いずれにいたしましても、総合的な学習の情報活用教育が必修化されることは間違いのないようであります。したがって、生成AI教育は、今後、不可欠だと言われておる次第であります。我孫子市教育委員会として、本市の子どもたちのために喫緊の課題として今後の対応と対策について、まず、教育長にお伺いしたいと思っております。お願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。高見澤隆企画総務部長。

〔説明員高見澤隆君登壇〕

○説明員（高見澤隆君） 私からは、（1）についてお答えいたします。

我孫子市では、令和6年9月から全ての部署の正職員を対象に生成AIを導入しており、デジタル戦略課が中心となって、全庁的に生成AIの活用を推進しています。多くの職員が生成AIを活用して業務の効率化を図るためには、基礎知識や利用方法の習得が重要であると考えております。そのため、効果的な研修や活用テクニックを提供し、実際の業務に生かせるよう活用事例や使い方ガイドを定期的に庁内に共有していることにより、特に文書の要約や原稿案の作成、過去の議会議

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

議録から議会答弁案を作成する業務などにおいて、業務時間の削減につながっていると考えております。

今後、生成A I を積極的に活用することで削減できた業務時間については、職員がより専門的な業務や市民との対話などにシフトし、市民サービスの向上につながれると考えており、引き続き、利活用の推進に取り組んでまいります。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。丸智彦教育長。

〔説明員丸智彦君登壇〕

○説明員（丸智彦君） （2）についてお答えします。

我孫子市においても、文部科学省のG I G Aスクール構想にのっとり、令和3年度より小中学校の児童生徒へ1人1台端末を配付し、デジタル教育の推進を図っております。

令和7年9月に第2次教育I C T基盤が整備され、大容量のネットワーク情報にも対応できる環境が整い、最近では、より一層端末を活用しながら個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進に取り組んでおります。

中央教育審議会が示したハイブリッド型教科書につきましては、紙とデジタル双方の特性を生かした柔軟な学習スタイルの実現を目指すものと認識しております。本市では、紙の教科書を基本としつつ、単元や学習場面に応じてデジタル教材や動画、音声などを活用するハイブリッド型の教育を推進してまいります。これにより、児童生徒の理解度や学習意欲の向上につながるものと考えております。

一方で、文字を書く時間の減少による学力の低下や健康被害などについて、全国的に指摘されている課題も認識しております。本市としても、I C T機器の適切な活用と児童生徒の健康管理の両立を図るため、最新の健康への影響に関する情報を注視しながら、安全・安心な活用を最重要課題として取り組んでまいります。

次期学習指導要領の改訂では、小学校の総合的な学習の時間や中学校に新設される情報技術科を中心に、メディアリテラシーを育成する考えが示されています。小学校では、「情報をうのみにせず、吟味して判断できるようにする。情報の中には、送り手が一部を切り取って発信したものがあつことを認識する。」、中学校では、「メディアを比較しながら情報の信頼性を吟味し、批判的に考察する。」ことなどを学習します。そのため、生成A Iを含むA I教育についても、ますます、必要不可欠になっていくことと認識しております。

現在、生成A Iについては、国の生成A Iガイドラインに準拠して取り組んでおりますが、今後は学習活動において、より効果的、安全に活用できるよう、令和8年度中に我孫子市版の生成A I活用ガイドラインを策定する方針です。引き続き、生成A Iを活用することのよさだけでなく、学習効果や危険性について教職員と共通理解を図りながら、児童生徒の発達段階に合った教育を実施

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

してまいります。

今後もA Iを効果的に活用しつつ、紙とデジタルのそれぞれのよさを最大限引き出しながら、児童生徒の情報モラルを含む情報活用能力や適切にI C Tを活用した学習活動の充実に取り組んでまいります。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 ありがとうございます。

企画総務部長にお願いいたします。

先ほど御答弁いただきましたけれども、特に我孫子市は財政が厳しい中で、A Iを使って多岐にわたって効率化を図るということは、私はとても大事な使命であると思っております。ですから、それを十分に重視されまして、このA Iをよい方向に使っていただければ大変いいかなと、このように思っております。その辺、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。高見澤隆企画総務部長。

○説明員（高見澤隆君） 先ほど議員から船橋の例があって、2, 0 0 0時間の削減というお話がありましたけれども、我孫子に置き換えてみますと、約ですけれども、ここ1 2月、1月、2月の平均で大体7 0 0時間から8 0 0時間は時間の削減ができているという状況もございます。

今後も、先ほどの答弁では文書の要約であったり、原稿案の作成、議会答弁の作成というようなところで申しあげましたけれども、直近では国勢調査の分類などにも生成A Iを活用しているような状況もありますので、活用方法をより広げていって業務の削減時間も増やしていきたいというふうに考えております。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 ありがとうございます。

教育委員会の教育長に、ひとつ、お願いいたします。

先ほど、申しあげたとおり、文部科学省の中央教育審議会の答申を見ているわけですが、いずれにいたしましても、2 0 3 0年度からこのデジタル化をやっていくわけですが、子どもたちにできるだけ早く理解していただきながら、情報教育と申しましょうか、それを十分、子どもたちに指導して、子どもたちになるように、ひとつ、お願いする次第でございます。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。丸智彦教育長。

○説明員（丸智彦君） 先ほどの答弁の中でも申しあげましたけれども、令和3年度からG I G Aスクール構想が始まって、それから、どんどん学習の面では進んでいるかなというふうに思っています。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

子どもたちには、急速に進むこのA I時代に向けて、子どもたちが活用する上で、有効性とか有益性をしっかりと教える、感じてもらうとともに、危険性についてももしっかりその辺のことを教えていきたいというふうに思っています。

やはり、あとは、私はA I時代だからこそ、人でなければできないことということも、しっかりと指導していかなくちゃいけないかなというふうに思っています。また、結論、答えだけを求めるんじゃなくて、やはり、教育というのは導き出す過程というのが大切かなと思いますので、その辺のところもしっかりと指導していきたいというふうに思っています。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 教育長、どうもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

次に、大綱3の令和7年度湖北台自治会連合会からの要望書についてお尋ねいたします。

それでは要望書の中から幾つかの質問をさせていただきます。

御案内のとおり、湖北台は1丁目から10丁目まで各自治会がありまして、2025年現在の人口は、地域の統計地理データタウンチェックによると、1万1,591人の方々がお住まいになっております。

その各自治会の要望として、まず、(1)として、湖北台5丁目10番地北側斜面の土砂の流出改善についてであります。この案件は、2025年9月5日午後、台風15号の接近に伴う暴風雨によって、北側斜面から道路上に土砂が流出した事故が発生したとのことであります。原因は、上部の4丁目高台に降った大量の雨、つまり、湖北台東小学校裏付近の校庭から流れ出る大量の雨水が原因ではないかと推定されております。

現在は、流出した箇所を土のうシートで補修するなど、また、倒木のおそれがある松の木、十四、五本を切って応急処置がなされたが、いつまた大量の雨により土砂が流出するか分かりません。そのようなことから、5丁目住民の皆さんは、毎日、不安を抱えている状況とのことであります。ぜひ、早急に対策、対応を講じるようお願いしたいとのことであります。

また、市内には、このように大量の雨が降ると土砂が流出する地域もあるようですが、あわせてその対策、対応を計画的にお願いいたす次第であります。いかがでしょうか、お尋ねいたします。

次に、(2)として空き家管理対策についてお尋ねいたします。

この政策課題につきましては、令和6年3月議会の私の代表質問にて、内容が少し異なりますが、お尋ねいたしております。我孫子市も高齢化が進んでいる状況下で、社会状況が変貌する中、市内全域にわたって言えることですが、つまり、御自分の家を管理することが困難になり家を放置する方々が、近年、ますます増えている状況であります。

そのような状況の中から、敷地内の樹木が大きくなり、電線に接触し、危ない状態になるなど、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

また、家の敷地内の雑草が伸びていて、景観上、防犯上からも好ましくないと、隣接の家々の方々は困っている状況とのことでもあります。自治会としても手を施しているが、様々な問題があり、対応できない状況とのことでもあります。

そこで、この課題について、対策があれば教えてくださいとのことでもあります。いかがでしょうか。

次に、（３）の湖北地区図書館建設についてであります。湖北台連合会からも、未来を担う子どもたちのために不可欠な施設でありますので、図書館建設が早期に実現することを、ぜひ、お願いいたしますと、要望書の中に記載されておりました。

したがって、この趣旨につきましては、昨年３月議会と１２月議会において、地域の皆さんの強い要請を受け質問いたしておりますが、市長の答弁では、現東消防署湖北分署、旧湖北台行政サービスセンター、湖北台市民センターの跡地に、我孫子市が想定するコンセプトを基に新たな活用方法を検討し、よりよい活用の実現を目指すために、広く民間事業者の意見を聞きながらサウンディング型市場調査を行うと答弁されております。

先般、ホームページを拝見したところ、３施設の跡地の市場調査を行うスケジュール日程が１月２６日から３月２７日まで行うとのことです。その結果の公表は、令和８年４月以降になるとのことでもあります。

いずれにいたしましても、地域の皆さんが、長い間、要望いたしておる湖北地区図書館ができることを、地域の議員として切に願う次第であります。そのことを踏まえ、市長の御見解を、再度、お聞きいたしたいと思っております。

次に、（４）の我孫子市都部５０６番地に隣接する土地の産業廃棄物撤去について、湖北台団地自治会の要望書の中から、自治会が管理する第４駐車場（我孫子市都部５０６番）に隣接する土地に、建設廃材や電気製品などの廃棄物と見られるものが山積みされていると。強風時には産業廃棄物の一部が周辺の家々や駐車場に飛ばされ困っている状況とのことでもあります。一刻も早く撤去に向けて行政指導をお願いいたしますと、要望書の中に書かれておりました。

この趣旨につきましては、御案内のように、地域の皆さんより要請を受け、昨年９月議会にて、また、１２月議会にて、業者に対して県と市に厳しい行政指導を行うようお願いいたしておりましたが、先日、地域の方々より連絡が入り、業者は廃棄物処理の撤去がなされたということでもあります。本当に感謝いたしております。周辺の皆さんは、時間はかかりましたが、県と市の担当部局の皆さんの努力に対して感謝をいたしておりました。

いずれにしましても、また、同様なことが再び繰り返されないように、業者に対して行政指導を行うようお願いいたす次第であります。いかがでしょうか。お尋ねいたします。

次に、（５）の湖北台けやき通りの樹木の管理の対応についてお尋ねいたします。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

湖北台6丁目から7丁目にかけてのけやき通りのけやきの木が年々成長し、樹木が生い茂っていて、夜になると街路灯が樹木の陰になり、車が来ても見えづらいなどと、また、防犯上からも歩行者の皆さんは困っているとのことであります。そのようなことから、定期的に枝打ちや伐採の検討をお願いしたいということでもあります。

この対策は、市内全域にわたって言えることですが、例えば、平和台地域、青山台地域、つくし野地域の皆さんからも、私が要請を受けております。いずれにしても、計画的にその対応をお願いいたす次第であります。いかがでしょうか。お答えください。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。海老原正建設部長。

〔説明員海老原正君登壇〕

○説明員（海老原正君） 私からは、（1）と（5）についてお答えします。

初めに、（1）についてお答えします。

湖北台5丁目北側斜面の土砂流出に関しては、斜面側へ雨水が流入しないように道路脇に緊急的に土のうを設置し、土砂の流出を抑制するために公園斜面にシートと大型土のうで養生を行いました。また、土砂圧により倒木のおそれがあった松の立木11本を伐採し、安全確保を図りました。さらに、大雨の際には、現地の状況確認のため、パトロールを実施しております。

今後の対応としては、道路脇に設置した土のうをかさ上げコンクリートに替える工事を令和8年5月までに着手予定です。工事の具体的な内容やスケジュールが決まり次第、地域の皆様へ回覧などでお知らせをいたします。

排水機能の改善に関しては、道路側溝の排水を妨げる落ち葉や枯れ枝の堆積を抑制するため、沿道樹木の剪定を実施しています。また、湖北台東小学校の雨水排水については、排水機能向上を目的に、校地内に設置されている側溝の堆積物除去を定期的に行っています。

次に令和5年9月の豪雨によって大規模な倒木が発生し、緊急対応を行った寿古墳公園の南側斜面は、令和8年度にのり面防護工事を実施し、年度内の完了を計画しています。

次に、（5）についてお答えします。

湖北台6丁目から7丁目にかけてのけやき通り沿いのケヤキについて、地域からの要望を受け、令和7年7月に18本の下枝剪定を行うとともに、10月には枯れ枝の剪定も実施しました。今後も歩行者や車両の安全な通行が確保されるよう、剪定業務を行っていきます。

また、市内全域の街路樹管理については、我孫子市街路樹管理計画に基づき3年に1度の剪定を基本として、路線別の管理目標や指針を定め適切な維持管理に努めています。多くの地域から同様の御要望が寄せられていることから、引き続き、計画的に街路樹の維持管理を行っていきます。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。海老原郁夫市民生活部長。

〔説明員海老原郁夫君登壇〕

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○説明員（海老原郁夫君） 私からは、（２）についてお答えします。

空き家対策の考え方としては、所有者等に空き家の状況を自ら認識してもらい、自らの責任で適切に管理することが基本となります。敷地内の雑草等が繁茂している状況や外壁等が破損しているなど、市で把握し切れていない空き家もありますので、まずは市に御相談ください。

市では、現地調査を行うとともに所有者等の調査を行い、所有者等に対し書面や訪問などにより改善を促していきます。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星野順一郎市長。

〔市長星野順一郎君登壇〕

○市長（星野順一郎君） 私からは、（３）についてお答えをいたします。

湖北分署等の跡地のサウンディング型市場調査につきましては、２月末までに３者から参加の申込みがあり、今月に対話を実施をする予定です。市が想定しているコンセプトとして、子育て世帯の居場所づくりと図書館分館の整備の２つを挙げています。今後は対話において、図書館分館機能設置の可能性についても意見を交わし、当該地の有効活用が図れるように検討を進めていく予定です。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

〔説明員大井一郎君登壇〕

○説明員（大井一郎君） 私からは、（４）についてお答えします。

当該地については、産業廃棄物の撤去までに時間を要し、近隣の方々には、大変、御迷惑をおかけしました。今回の件では、原因者の責任で適正に処分するよう産業廃棄物の指導を所管する千葉県東葛飾地域振興事務所及び警察と協力し対応してきました。再発防止についても、原因者に対し県が指導をしています。同様なことが再び繰り返されないよう、当該地も含め市でも定期的な市内パトロールを継続し、県と協力していきます。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 ありがとうございます。

担当部長から適切な御答弁いただきまして、ありがとうございました。

いずれにいたしましても、このような社会環境の中で様々な問題が指摘されると思いますけれども、その対応に努力していただければ幸いです。お願い申し上げます。

そこで、（１）について再質問させていただきます。

（１）として、湖北台５丁目１０番地の北側斜面の土砂の流出改善についてであります。まず、東小学校裏門の付近の校庭から流れ出る大量の雨水を流すために、定期的に側溝の清掃を行っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

また、現在は、土の、泥が入った袋を、このように、実はあるんですけどね。この対策として、景観上、大変好ましくないという形で、その泥の撤去を一日も早く処理してくれということを地域の皆さんから言われております。ぜひ、ひとつお願い申し上げます。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。海老原正建設部長。

○説明員（海老原正君） 湖北台5丁目北側斜面に関するところのU字溝の清掃というところなんですけれども、大雨が降ったときには、そこは枯れ枝とかが堆積していないかというところは、この土砂流出が発生してから行っておりますので、それは引き続き、行っていきたいと思います。

それと、あと土のうについては、今、仮に設置しております。先ほど答弁しましたように、令和8年度になりましたら早急にこちらのほうを撤去いたしまして、かさ上げのコンクリートを設置する予定となっておりますので、早急に対応していきたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 ありがとうございます。

考えているのと全く同じ答弁になって私は、ちょっとびっくりしたんですがね。先ほど答弁いただきましたけど、本当にガードレールの脇に50センチほど、鉄骨の壁面を造ってくれるということでお願いしたんですよ。全く同じような答弁をいただきまして本当に感謝をいたしております。

いずれにいたしましても、この場所は、本当に先ほど写真を拝見させたと思いますけれども、本当に大変な場所なんですね。ですから、今、担当部長がその辺を理解して、一日も早く対応したいということを聞きましたので、本当に安心しました。お願いいたします。

それでは、大綱4の教育福祉行政についてお尋ねいたします。

令和8年度保育関係予算案、こども家庭庁からの内容等内訳についてお尋ねいたします。

御承知のように、令和7年12月26日に令和8年度予算案が閣議決定され、その内容と内訳等を拝見すると、様々な分野にわたり子育て支援策として保育関係予算案が組まれておりました。特にこども誰でも通園制度の全国展開や保育士などの処遇改善、障害児保育の拡充など、子ども・子育て支援が大幅に強化され、特に延長保育事業などの障害児を受け入れた場合の障害児保育加算費の創設や保育所におけるインクルージョンの推進のための対策費など、また、保育士等のミドルリーダーの活躍による保育の向上推進事業費など、これまでは自治体の実施主体となり、中堅の保育士に対する研修や公開保育等の実施などの支援経費を補っておりましたが、今度は国が補うとのこととあります。

また、保育士修学資金貸付返還免除期間を、今までは8年だったんですが、5年実務に従事された方に返還免除するというごこととございます。また、保育所における安全対策として、子どもの見守りに必要なAIカメラ、また、睡眠中の事故防止対策に必要な器具、午睡センサー等の設備支援

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

費などなど、多岐にわたってこども家庭庁において予算が計上されておったようです。

いずれにいたしましても、就学前の保育等の総合的な提供の推進に関する法律施行規則の一部を改正する命令の公布を各市町村に通知をお出しになったようであります。

そこでお尋ねいたします。

この事柄の対策対応について、担当部局として、今後、どのような対応をされ、本市の保育行政において、いかに効率的に役立たせようとしておられるのかをお聞かせください。お願いいたします。

一方、そのような中で、こども家庭庁では、子育て支援の充実を図るために医療保険料と併せて子育て支援金制度の徴収が今年から始まり、お子さん1人当たりの徴収額の積算が公表されました。その内容等を見ると、5月ないし8月頃に徴収が始まり、試算では保険組合に加入している人から1人当たりの月平均額として約550円と、また、自営業の皆さんが加入している市町村の国民健康保険では、1世帯当たり約300円と、また、後期高齢者医療費では1人約200円ほどの徴収がされるとのことです。このことは御案内のように、政府が2023年度に策定したこども未来戦略施策に基づいた子育て支援策に充てるとのことです。

そこでお尋ねいたしますが、この政策に対して、今日の物価高騰により生活が厳しい中、子育て支援の一部とはいえ市民の皆さんへ負担させることはいかかなものかと私は思いますが、たとえ政府が決められたとしても、政府のこの対策に対して我孫子市の市長として、どのような御見解をお持ちになりますか。お尋ねいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星野順一郎市長。

〔市長星野順一郎君登壇〕

○市長（星野順一郎君） まず、初めに、令和8年度の保育関係予算についてお答えをいたします。

我孫子市では、待機児童ゼロの堅持と保育の質の向上を柱に、保育園や認定こども園等における保育人材の確保を支援しております。また、延長保育、一時預かり保育、病児・病後児保育など多様な保育ニーズへの対応を進めているところです。

令和8年度こども家庭庁予算案では、保育士等の処遇改善の上積み、こども誰でも通園制度の全国展開、ミドルリーダーの育成と活用、保育所等における事故防止の強化、インクルーシブ保育の推進などの政策が盛り込まれているところです。こうした国の施策につきましては、保育園や認定こども園等と情報を共有し、各施設の活用意向や優先度などを踏まえながら、市における予算化を進めてまいります。

次に、子ども・子育て支援金制度についてお答えをいたします。

国は少子化が最大の危機であると認識をしており、特に若年人口が急激に減少する2030年代に入るまで、この状況を反転させるための重要な分岐点と考えています。そこでこども未来戦略加速化プランを策定し、子ども・子育て支援の充実に必要な財源を確保するための取り組みの一環

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

として、この制度を法律化したしました。将来の社会を担う若い世代を育む観点から、独身の方や子育てを終えられた方、高齢者の方を含む全世代及び企業にも医療保険料とあわせて支援金を拠出いただき、子育てを支え合う制度となっています。

支援金は、令和8年度から始まることも誰でも通園制度や、既に実施をされています児童手当の拡充、妊婦のための支援給付などの給付拡充の財源に充てられることになっていて、少子化対策に効果を発揮する制度であると認識をしています。

全ての世代の一人ひとりの理解と協力を得ながら少子化対策を推進することで、若い世代が希望どおりに結婚し、希望する誰もが子どもを持ち、安心して子育てできる社会、子どもたちがいかなる環境や家庭状況にあっても分け隔てなく大切にされ、育まれ、笑顔で暮らせる社会の実現を図るために、市民の皆様には御負担については御理解を賜りますようお願い申し上げる次第です。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 市長、これは国の定めたことですから、我孫子市長といえども、それは、大変、難しい問題ですけれども、いずれにいたしましても、これは3年前にこういうことを国のほうで決められたことで、これまで3年有余の時間があつたわけですけれども、今回、陳情、請願等も上がっておりますけれども、いずれにいたしましても、私としてはどうも不満です、これは。まあしょうがないです、これは。大変、御理解ある御答弁、ありがとうございました。

そこで1つだけ、部長にお聞きしたいんですけれども、子ども誰でも通園制度の全国展開のことなんですけれども、御案内のとおり我孫子市では、寿保育園と、たしか、聖華みどり保育園2園が手を挙げられたということをお聞きいたしておるんですけれども、我孫子市には二十二、三園がありますけれども、保育士さんが少なくて、いないからということで手を挙げられなかったという保育園が多いんですね。ですから、先ほど保育士さんの様々な課題について私が申し上げましたけれども、いずれにいたしましても保育園の先生の増員というんでしょうか、各保育園に配置できるような担当部局として努力していただきたいなど、こう思うんです。

つまり、市民の皆さんは、誰でも保育園に入れるんだという、少なからず考える方がなきにしもあらずなんです。ですから、2園と言わず、できるだけ多くの保育園で受入体制ができるようにぜひ努力をしていただきたいと思います。その点について、星部長、お願い申し上げます。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星範之子ども部長。

○説明員（星範之君） まず、誰でも通園制度の実施園につきましては、令和8年度から寿保育園で実施いたします。民間の保育園、幼稚園については、これから、その1人当たりの委託料とか、そういった国の単価が、今、定まってきたところですので、そういったところの説明を含めながら、来年度順次、各園のほうの意向を確認していきたいと考えております。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

今の議員がおっしゃられたとおり、この制度を始めるには、やはり、保育士が必要になってきます。本当に喫緊の課題として保育士不足がうたわれている中で、こういった制度が始まるのが各園としても、かなり、大変なところなんです。現在、我孫子市は保育士に対する処遇改善、それと宿舎借り上げ制度、そういった保育士確保のための補助事業などもやって、どうにか、保育士の最低限の確保ができるように事業を進めているところです。

引き続き、保育士不足の状況を加味しながら、いろいろ制度の見直し等、必要があるかどうかは今後検討してまいります。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 いずれにいたしましても、これは大変な仕事であるし、また、一方、保育士さんを、今度、我孫子市の各保育園に配置転換というか配置をするためには、やっぱり人がいないということは本当に子育て支援に対しても、これは大変なことだと私は思うんです。基本的な考えを御答弁いただきましたけど、ぜひ、ひとつ努力して対応していただきたいと、このように思う次第でございます。

最後に、大綱5の（仮称）我孫子市湖北消防署に伴う安全対策のインフラ整備についてお答えいたします。

当時、（仮称）我孫子市湖北消防署建設に当たり、地域の皆さんより様々な意見や要請がありました。その中の信号機の設置の要望、また、消防署隣接道路の舗装工事やガードレールの設置など、地域の皆さんより強い要請がありましたが、各担当部局といたしまして、どのような対応を考えて、その対応をいたそうとしておりますか、お尋ねいたします。お願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。渡辺健成副市長。

〔説明員渡辺健成君登壇〕

○説明員（渡辺健成君） 湖北消防署の建設に当たり、信号機の設置や側溝の改修、舗装修繕やガードレールの設置など様々な御要望をいただいております。

信号機の設置につきましては、現在、下ケ戸・中里線の道路整備に係る千葉県警察本部との協議を行っており、その中で信号機の設置につきましても要望をしております。今後も信号機の設置につきまして、継続して要望してまいります。

次に、ガードレールの設置につきましては、既に道路の供用を開始している下ケ戸・中里線の約100メートルの区間において、車両の通行や歩行者の安全確保を目的として、ガードレールや路面表示などの安全施設の設置が完了しています。

次に、湖北消防署から石井踏切にかけての道路延長約280メートルの側溝改修及び舗装修繕につきましては、現在、工事に向けた設計や支障となる電柱の移設協議を進めており、令和8年度に

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

側溝改修工事に着手し、令和11年度までに舗装工事を含め完了する予定です。

最後に歩道の整備につきましては、消防署庁舎敷地の一部を利用し、外周に幅2メートルの歩道を設置いたします。その歩道に車道と分離するためのブロックを設置することで、通行の安全確保を図るとともに、防犯灯を設置することで夜間における視認性の確保も図ってまいります。

○議長（日暮俊一君） 佐々木豊治議員。

〔佐々木豊治君登壇〕

○佐々木豊治君 適切な御答弁、ありがとうございました。

いずれにいたしましても、消防署も令和8年度に完成するわけですから、今、私は課題になっている地域の皆さんが要望されている信号機の問題なんです。実は先般、8月1日の土曜日、早朝8時頃だったと思います。軽自動車とあれは普通自動車かな。人身事故があったんです。ちょうど十字路のところですね。御案内のとおり、中里新田のほうから来るほうと、石井踏切から来るほうと、あるいは反対に湖北台から来るほうと、十字路がありましてね。その場所によって、3人の方がけがをされ、救急車で実は移送されたそうです。

ですから、そういう危ない場所ですから、信号機については一日も早くやっていただきたい。私こう思うんです。

実は私、ちょうど福島市長のときだったんですね。我孫子市に信号機をつけるのは何か所ぐらいあるんだと言ったら、31か所あると聞いたことがある。御案内のとおり、公安委員会では、たしか、各市町村に1年に1件ぐらいだと思っんです、恐らく。ですから、福島市長に私、その場で言って、じゃ、31年かかるんじゃないかと、こんなことを言ったの。その場所は、ちょうど養護施設の久遠苑のところの十字路でございます。それと反対側には、分かる方いるか、分かりませんが、養豚場の工事を行うということで、当時、日秀の方から、信号機を危ないからあそこにつけてくれと。名前を言うわけにいきませんが、そういう経過があるんですね。

ですから、そのことを思うと、副市長は努力されておるんですけれども、本当にあそこは、今、言ったように消防署の建設されている場所は危ない場所なんです。6メートル道路ですから、本当はかなり一時停止まで来ても見にくい場所なんです。ですから、一日も早く消防署建設と同時に、できればその前に信号機設置をやっていただきたいなど。本当に危ないんです、あの場所は。極力、そういうつもりで頑張っていたいただきたいと思います。

また、舗装道路の件につきましては、あの消防署できる隣接の方が、もともと狹隘道路なんですよね、今のところね。だから、一日も早くやってほしいと。と申しますのは、車が来ると振動でたまらないと。佐々木さん、何とか早くしてくれよと、そういう要請を受けているんです。

それから、もう一つは、ガードレール設置については、今、副市長がおっしゃるとおり、今、進めていますということでございましたので、本当にインフラ整備の対応については、一生懸命、早

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

く頑張っていたきたいなど、このようにお願いしまして、私からの市民フォーラムの代表質問、大綱5項目にわたりまして質問させていました。ありがとうございました。

○議長（日暮俊一君） 以上で佐々木豊治議員の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時12分休憩

午後2時25分開議

○議長（日暮俊一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

傍聴の皆様申し上げます。会議の支障とならないよう会議中は静粛にし、みだりに席を離れたりしないよう御協力をお願いいたします。また、許可を得ていない撮影は禁止されておりますので御了承ください。なお、携帯電話は電源を切りいただくか、マナーモードに設定していただきますようお願いいたします。

市政に対する一般質問を許します。日本共産党代表岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 日本共産党の岩井康です。党を代表しまして、代表質問を行います。

高市早苗首相は、2月20日金曜日に衆参両院の本会議で、就任後、初の施政方針演説を行いました。

私も、高市首相の施政方針演説を新聞で全文読みましたが、朝日新聞は首相の施政方針について、21日付の社説で次のように報じました。これは要旨でありますけれども、「言葉より具体的中身を」の見出しで、朝日新聞は「焦点の食料品の消費税ゼロについては、」、「2年に限り、赤字国債に頼らずに実現をめざすとした。だが10兆円にのぼる財源をどう確保するのかなど、具体策は超党派の「国民会議」に丸投げだ。とても与党の責任を果たしているとはいえない。」、「イメージ優先で、言葉は躍るが、本当に知りたい政策の中身はあいまいなままで、大きな国家ビジョンも伝わってこない。」と指摘しているように、地方自治を預かる執行部の皆さんには、今後の国の政策について厳しく受け止めておられるのではないのでしょうか。

それでは、大綱3点について質問いたします。

大綱1、星野市長の政治姿勢について。

今、我孫子市だけではなく、全国が物価高騰で大変な状況となっています。総選挙では、高市政権は、空前的な圧倒的な多数を獲得しましたが、具体的な政策の根拠は明らかにしていません。総選挙を目前にした各党の政策が明らかになる中で、国民の暮らしを支援するための消費税減税を掲げました。1月24、25両日に行われた党首討論で、自民党高市早苗首相の消費税減税の主張が示されました。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

高市氏は、1月24日のインターネット番組で、消費税減税について、食料品のみ2年限定の減税を主張、外食産業への影響など問題が指摘されると、この選挙が終わったら国民会議で決めましようかと答えました。連立与党の日本維新の会の藤田文武共同代表も、議論が煮詰まっていない、確定的マニフェストとして言えませんなどと発言しました。

日本共産党の田村委員長は、フジテレビの「日曜報道」で消費税減税をめぐり、「飲食、つまり、外食も含めて全て減税が必要で、一律5%の減税、自民党などが主張する2年限定だと、2年後にまた、消費税増税となり、大不況になってしまう。だから、恒久減税が必要です」と強調。ほとんどの党が消費税の減税に言及する中で、財源をどうするかに焦点が当たってきていると指摘し、大企業、大株主への減税と税優遇を見直し、大企業の法人税率を元に戻す、さらに富裕税の創設などで合計16兆円以上の財源確保ができると主張しました。

高市政権は、財源を明らかにしないまま、総選挙の中で消費税について国の対策として、食料品について2年間減税すると国民に向けて示しました。

市民から高市首相の国会答弁を聞いていると、この国は大丈夫かと心配になります。そこで、我孫子市のトップである市長に、安心して生活できるような施策を示してほしいと強い要望が寄せられています。市長は、高市政権の施策をどのように受け止めていますか、お答えください。

市民からは、「国は食料品については減税すると言っているが、我孫子市はどうなるんだろう。物価高騰は食料品だけではないんだから」という声が寄せられています。市長はこのような市民の声に対してどのような政策を示しますか。お答えいただきたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員の質問に対する当局の答弁を求めます。星野順一郎市長。

〔市長星野順一郎君登壇〕

○市長（星野順一郎君） （1）、（2）について、あわせてお答えいたします。

2月に行われました衆院選の結果は、高市政権に対する国民の大きな期待感の表れであると受け止めています。2月20日に行われた施政方針演説では、責任ある積極財政が改めて強調されており、様々な政策を通じ、国力の底上げにつながることを期待をしています。

食料品に係る消費税の減税につきましては、自治体の財政にどのような影響が及ぶのか、全国市長会などを通じ、制度の検討状況を把握をしまいたいと思っています。

我孫子市における物価高騰対策としては、1人5,000円の現金給付及び水道料金の基本料金4か月分の減免を行う予定です。また、小学校給食費の完全無償化や、中学校においては中学校に在籍する第3子以降の生徒の学校給食費の無償化、また、第1子、第2子の生徒への月額1,000円の支援などを継続をしまっています。さらに、保育園・幼稚園の給食食材費の高騰分への補助についても検討していきます。

今後も国の動向を注視するとともに、私自ら、これまでと同様、積極的に国や県等に足を運んで、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

財源の確保に努め、市民の皆様は安全で安心して生活してもらえるように、取り組んでまいります。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

今、市長から答弁いただきましたが、20日に行われましたこの件ですね。実際には、施政方針のところでも、経済力について責任ある積極財政、こういう言い方をしているんですね。

積極財政と言うからには、当然、その原資なり、その大本はどうなるのかというようなことが、当然、必要なんですね。このあたりについても、ここでは明らかにされていません、実際には。ですから、これからだというふうに言っていますけれども、今、待たないんですね。正直に言って、皆さんの生活、私なんかのところへ来る市民の方々は、本当に国保であるとか、いろんな問題が山積してしまっていて、そして、もう何とかしてほしいという声が充満している。

こういう中でありますから、今、お答えあった5,000円の問題も、これは確かにありがたいというか、喜ばれると思いますが、これは一時金ですよ、正直言ってね。ですから、これは5,000円が毎月出るならこれはまた別ですけども、そうではないわけですから。やっぱり一時的に急場しのぎの部分がありますけれども、例えばこういったことを一つのきっかけにしながら、国がどのように対応するのか。国の姿勢がやっぱりどうしても必要だろう。これは全国市長会でも、いろんな形で、国保にしても1兆円の財源を出すようにと言っていますけれども、そのようにやっぱり国が責任を取る。

実際には、これはちょっと、ここでの質問にはすぐいませんけれども、例えば子どもの給付金の問題。あれなんかだって、実際には国が責任を負うべきじゃないかというようなことを私たちも言っていますし、その財源はどうするのか、子どもの助成金は軍事費に回すと、こういう言い方もしているんですね。

こんなことなんかからいきますと、果たして本当に安心できるのか。むしろだから、我孫子市に頼る、こういう部分も市民の皆さんにはあるんだと思うんですよ。本当に我孫子市がどうしてくれるんだろうかということが非常に大きいんじゃないかと思います。

そういう点では、ぜひ、このあたりについて、今、お答えいただいた5,000円の問題、水道料金の問題、給食費無料化の問題、財源確保の問題等々については、これは非常に積極的な部分として評価しながらも、じゃ、これ以外に今考えられることはないのかどうか。今、実現してはいませんけれども、こんなのを考えているよというのがあれば、ぜひ、お知らせいただきたいと思えます。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星野順一郎市長。

○市長（星野順一郎君） 以前にもお話ししたように、今、保育園の保育料については、うちの若

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

手職員による若者プロジェクトの中で、保育園の多子世帯ですね、いわゆる第3子以降の無償化についてでも提言が2年ほど前にありましたが、今回、この小学校の給食の無償化による少し浮くところっていいでしょうか、御存じのように我孫子市は1人1,000円の補助を出していますから、それが540円で済むということは、その浮いた財源を使って、保育園の保育料の無償化の分に充てる予定をさせていただいています。

ただ、業者のほうと、今、調整中なんですけれども、システム改修がなかなか間に合わないよという状況の中で、このシステム改修が出来次第ということで、遅くとも令和9年度からはスタートできるだろうというふうに見通しを立てています。

それと、御存じのように、もう、既にスタートしています我孫子市内での小児科医の不足、これについては、今年の1月からは聖仁会病院において小児科の診療がオープンしました。ここについては、知事のところにも足を運んで、県からの補助という形で病院の中の小児救急、夜間は残念ながら今のとこまでできていませんが、小児科が一つオープンをした。

そして、1月から天王台の南口で小児科がオープンすることになりました。こちらのほうは御存じのように、市の1,500万円の補助を使って小児科の誘致に成功したという事例であります。令和8年度からは、毎年100万円ずつ補助を出しながら、小児科の安定的な経営を支えながら、小児科診療、当然、小児科診療だけではなくて、休日診療所の小児科の当番、そして、各種個別健診や予防注射の部分にも充てられるし、学校医、保育園医のほうにも手が回るようになってくるというふうに思っています。

そして、今現在も、2つほど今交渉しているんですけれども、我孫子駅の南側にも小児科のオープンの見通しが立ってきました。それと今年の11月には、天王台駅北口への小児科のオープンという形で、あと2件ほど我孫子市内、我孫子と天王台それぞれ1件ずつ小児科の診療所のオープンというところまでこぎ着けていますんで、これが決まりましたらまた改めて御報告をする予定にしていますけれども、これにも、当然、小児科の開業に向けての補助を出しているという状況です。

また、あわせて、医師の働き方改革によって、JAとりでの病院が、救急車の搬送すら受け入れられない状態になったときに、柏市の医師会とも協定を結びながら、我孫子市の医師会の先生方にも随分と御協力をいただいたんですけれども、柏市の医師会に補助を出しながらも、柏市の小児救急の輪番制の中に我孫子市の子どもたちが入るようになって、そして、また、JAとりでのほうも何とかやりくりをつけて、もう、既に去年の夏ぐらいからは救急搬送もJAとりで病院にも搬送ができるようになって、我孫子市の子どもたちからすると、救急搬送においては、JA、そして、また、柏市内の小児科輪番制の中に組み込まれるという状況になってまいりました。様々な形で、子どもたちへの投資も含めて、これからもしっかりと対応していきたいなというふうに思っています。

そして、先ほど言ったように、小学校の体育館へのエアコン設置についても、何とか予算を捻出

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

していかなければなりませんので、そこについても、これは小学校の子どもたちだけではなくて、いざ災害があったときに我孫子市民の避難所になるわけですから、ここについてのエアコン設置についても国の補助金を活用しながら、なるべく早急に。これは早急にしたいんですけども、今までの答弁でも分かるように、技師の手当てがなかなか難しいという状況の中で、今回の技師の確保についても補助、いわゆる手当を加算をする形で、技師の確保につながるように、今、手当をすることにしていきますので、様々な形で我孫子市民のいろんな形でいろんなところで利益が得られるように、市民サービスが享受できるようにするための努力はこれからも続けていきたいなというふうに思っています。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

市民の皆さんが私どものところへ来ていろいろ相談して、何とかしてほしいという、その大本にあるのは、市長が5期積み重ねてきた内容に、さらにどうというのが、実際、積み上がっていくのかと、ここら辺なんですよ。ここら辺が市民の皆さんが、期待すること。これから我孫子市がどうなっていくのかという将来ビジョンとあわせて考えられるということじゃないかと思うんですね。このあたりについてはどうですか。ちょっと抽象的で申し訳ないですけど。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星野順一郎市長。

○市長（星野順一郎君） 確かに5期20年目に突入しましたがけれども、今までいろんなところに足を運んで、いろんな方々と知り合うことができ、いろんなところでいろんなお願い事をしていく中で、国交省あるいは千葉県、あるいはJR、いろんな形で職員が話合いができない状況から話ができる状況になってきて、様々な形で好転してきたというふうには認識をしています。

おかげで、成田線も含めて品川まであれだけの本数確保できたのも、私だけではなくて、この常磐線沿線あるいは成田線沿線の市長さんたちも随分と一緒に行動してくれました。いろんな形でいろんなものをやっていくためには、まず、知り合うということの必要性、大切さというのを非常に実感をしてきました。それで一つ一つお願いをしながら、課題を向こうからも提案されていきますから、それに対してのこちら側での用意できる中身というのを提示をしなければ、ウィン・ウィンの関係にはなりませんから、そこについてはこれからもお願いをする限りは、しっかりと持ち帰ってこちらが出せる条件といたしましょうか、協力できる部分というものを示しながら、これからも課題解決に向けてしていく必要があるだろうというふうに思っています。

この中で、ずっとやってきたのは、やっぱり安心して暮らせるためには、いざ台風が来たときに、枕高くして眠れるような水害のないまちをつくっていったり、安心していざというときに病院にかかれる体制をつくったりとか。医療の場合はやっぱり、1次医療、2次医療、3次医療という形で、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

全てを市内で完結しようとするには、その医療資源といいますか、働くドクター、ナース含めたスタッフが欠けていてはその体制が組めませんから、そこについては1次、2次、3次としっかりと分けながら、市内で完結する1次医療と、もう少し広域にしていく2次、それでもっと広域化してそれと専門化していく3次医療というのをしっかりと分けながら、これからも対応していく必要があるだろうというふうに思っています。

それにあわせて、やっぱり御存じのように、今では高校3年生まで千葉県内の病院ではどこでも我孫子の医療券を使えば病院にかかれるようになりましたけど、20年前はそんな状態ではなかったというのをしっかりと踏まえてもらって、そして、今回はうちの職員も随分と頑張ってくれましたけれども、県外、県またぎで我孫子市の医療券が使えるのは全国初になっています。

厚労省もデジタル庁も、そして、こども家庭庁も、この方式について非常に興味関心を持ってくれていて、市の職員も含めて、今、医師会あるいは病院会も含めて勉強会という形を取るようになってきましたんで、これがもう少し進んでいってくると、我孫子市での医療券がもう少し幅広いあちらこちらの病院で使える。それは我孫子市だけの課題解決ではなくて、ほかのまちの子どもたちにも同じような享受ができるという状況になってきますんで、やっぱり少子化が進む中で、せっかく生まれた子どもたちが元気に自分の夢、目標を実現できるような学校教育であってほしいし、健康でいられるだけの医療体制というのは、これからも確保していく必要があるというふうに思っていますんで、そこについてはこれからもいろんなところでお話をさせてもらって、一つ一つ解決をしていきたいというふうに思っています。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

最初の答弁のところ、財源の確保の話がありました。当然、市長を先頭に国や県庁とか、そういうところに行かれると思うんですけども、このあたりはやっぱり庁内全体でそういったものをつくってきているというふうに見てよろしいんですか。市長を先頭にして実際に進めていると。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星野順一郎市長。

○市長（星野順一郎君） 私も市長に就任してからいろんなところへ頭を下げるの、私、嫌いじゃないですから、いろんなところへ行きました。そのときに、うちの職員も、この省庁のこの部署にこういう補助金があったとか、あるいはこういうものがあるというのを職員が情報を調べた上で、そうするとその部署について大臣、副大臣のところをお願いに行く。やっぱり、お願いに行っても、政務官あるいは局長クラスだとあまり行った意味がなくて、大臣、副大臣だと随分とそのかいがあるなというのをこの20年間で経験をしてきましたんで、そこについてはそういう行動をずっと常にしてきました。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

それによって、ほかの部署で補助が増額されるのであれば、それで違うところに充てられる財源というのが確保できるという状況になりますので、これからも様々なところに行く体制は取っていききたいというふうに思っています。どこに行けばどういう補助があるかとか、あるいはもうちょっとこの大臣あるいはこの副大臣だったら、私が行けばもらえるんだろうというような予想をしている職員がいますので、それをしっかりともらえるところにもらいに行くという形をこれからも取っていかうというふうに思っています。

それによって、我孫子市の新年度予算が随分と膨らみ続けているというのは御存じのとおりだというふうに思っていただけだと思います。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

今の答弁、ずっと聞いていまして、この内容が市民の皆さんにどう伝わるかと、ここら辺が大きいんですね。ですから広報等も有効活用していくわけですが、どのような方法で市民の皆さんに、全部を伝えるというわけにはいきませんが、ポイントのところを伝えていく、そして、実際に市民と一緒に考え、行動する、このことが必要だというふうに思います。そういう点では、ぜひ、そのあたりについて全庁的にも力を入れていただきたいということを私のほうからもお願いしたいと思います。

続きまして、大綱2に移ります。

大綱2は、自然エネルギーの積極的な取り組みについてということであります。

自然エネルギーの問題は、私が議員になってからずっと追いかけてきた課題でもあります。そういう点では、ぜひ、何とか地球温暖化防止を含めて進めていきたいと思っているわけであります。

我孫子市における太陽光パネル設置は、2024年度で42件、2025年度が32件で、普及の速度は大変遅い、そういう状況であります。

東京都は、太陽光設備の所有形態ではなく、屋根に太陽光を載せる量の確保で、2030年までに温室効果ガス半減を目標としており、建物屋根の活用を進める必要があるとしています。もう、既に新聞等々、マスコミの報道でも出ておりますように、新築をされる場合に、施工主のほうがこの太陽光発電をちゃんと計画に入れていく、このことが義務づけられています。そういう点では、今申し上げましたように、所有形態ではなくて太陽光を載せる量の確保ということになります。

そこで、東京都の例に学べば、改めて公共施設等について、太陽光パネルの設置についての調査を行い、具体的に進めることが急がれます。ここに、東京都の、今、申し上げましたこのパネルの資料が、かなりのページ数で入っていますが、この中でも具体的にどう進めていくかということが示されています。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

このような状況の中で、我孫子市は2026年度から太陽光発電システムの補助上限額は9万円から8万円に軽減されました。軽減の理由について、お答えください。

そして、世界的にCOP30でも繰り返し強調されているように、地球温暖化防止は人類生存の基本であります。私が議員になった頃、市内の公共施設54施設を対象に、調査・具体化することによって、市の公共施設に係る電力経費の大幅な削減につながると提案し、一時、具体的に進められました。途中で頓挫してしまいました。当時は、県内でも太陽光発電について自治体が行っているところは限られておりましたが、現在では県内では我孫子市は遅れた自治体となっています。地球温暖化防止のためにも、自然エネルギーの有効活用を急ぐべきと考えますが、お答えください。

自然エネルギーをすすめる我孫子の会、2026年、今年の年次総会が1月24日に行われました。2026年度方針では、気候変動は年々深刻になり、2024年度の世界平均気温上昇は1.55度に達し、パリ目標の2030年度1.5度Cを既に超え戻りのできないティッピングポイントに近づいていると危惧される状況であります。

このような中ですすめる会は、ゼロカーボンシティ宣言した我孫子市とともに、目標としてきた活動を着実に、かつ、急いで進める必要がある。自然エネルギーをすすめる我孫子の会では、我孫子市での自然エネルギーのさらなる普及・導入を図るため、2026年には次のような事業活動を行うとしています。

1つは、自然エネルギー導入の可能性に関する調査・研究であります。

①我孫子にふさわしい自然エネルギーの活用に関する調査・研究に取り組む。

②は、自然エネルギー活用に関する社会的動向、可能性について関係団体と情報交換や学習活動を進める。

③活動に必要な各種助成金などの申請を行う。

2として、自然エネルギーの事業化に関する検討であります。

①として第4号までの市民発電所の取得データなどをベースにして、太陽光発電設備や太陽熱、地中熱利用の事業条件、このように『地中熱読本』というのがありますけれども、これなどを読みますと、この地中熱というのは初期費用はかかりますが、しかし、実際には、24時間操業のところ、例えば病院でありますとか、消防署でありますとか、そういったところは24時間でありますから太陽が出ていなくても対応ができる、蓄電池を必要としない、そういったところで、これも私も何度かこの場で提案していますけれども、引き続き、この地中熱の問題についても検討していく必要があるということでもあります。そして事業成果、資金調達方法、社会還元度について検討していくと。

②として、公共施設や戸建て住宅への太陽光発電設備の広範な普及に必要な資金調達方法、

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

我孫子自然エネルギーのパネルオーナー制度を支援しつつ、当会に合う在り方を調査・研究をしていくと。

③は、太陽光発電は数値目標を持って取り組み、ゼロカーボンシティも支援する。

3として、自然エネルギーをすすめる環境教育、広報事業。

①ウェブサイトや広報紙を用いて活動状況を発信し、広く情報の周知を図るとともに会員拡大に努める。

②行政などへの自然エネルギー利用のための提案を行うとともに、関連団体の社会貢献活動に参加する。

③自然エネルギーの普及・啓発を図るため、ソーラークッカー大会などのイベントに参加するとともに、講演会、見学会などを行う。

④ニュースレターを継続して発行し、本会の活動状況を周知して、会員相互のコミュニケーションを図る。

つらつらと、今、申し上げましたけれども、こういった我孫子のすすめる会がどんなことをやっているかというのを皆さんにも知っていただきたいということから、ちょっと長くなりましたけれどもお知らせをいたしました。

以上のように、自然エネルギーをすすめる我孫子の会は積極的に進めるとしてはいますが、行政としての地球温暖化防止について積極的な対応をしていただきたい。お答えいただきたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

〔説明員大井一郎君登壇〕

○説明員（大井一郎君） （1）、（2）についてあわせてお答えします。

市は、住宅への太陽光発電設備や蓄電池の設置、窓の断熱改修、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車の導入などを行う方を対象に、脱炭素促進事業補助金を交付しています。このうち、太陽光発電設備については、令和4年度に千葉県から各市町村への補助がなくなった後も単独財源で補助を継続していましたが、財政上の理由から令和7年度より補助上限額を1万円減額せざるを得ませんでした。今後も、引き続き、太陽光発電設備も含めた補助金制度を維持し、市民の皆さんの脱炭素の取り組みを支援していきます。

自然エネルギーをすすめる我孫子の会は、市内で自然エネルギー導入を進めることを目的に設立された団体です。本市も団体会員であり、他の会員の皆さんと協力して講演会の開催やイベントでの展示啓発などの活動をしています。次年度には、環境学習の機会拡大のため、親子を対象にした太陽光パネル工作教室開催も提案しています。

また、会合では、地球温暖化防止に向けた取り組みについて意見交換をしていますが、実際に太陽光発電設備を導入した方の発電の実績データや感想といった市が把握しづらい情報に接すること

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

もできます。市はこのような場で得た知見も生かしながら、地球温暖化対策実行計画に沿って様々な取り組みを進めています。今後の具体的な取り組みとしては、公共施設照明LED化などによる省エネルギー対策の促進や太陽光発電設備の導入を考えています。

なお、太陽光発電設備に関しては従来の手法だけではなく、初期費用が抑えられ、複数の施設に一括して導入が可能な第三者所有を念頭に実施に向けた検討を進めていきます。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

お答えいただきましたけれども、ちょっと私が聞き落としてしまったのかどうか、分かりませんが、2番目の行政としての地球温暖化防止についてというこの設問については、お答えいただきましたか。最後のところの一行ですね。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

○説明員（大井一郎君） 行政として、市のほうは今後の具体的な取り組みということで、公共施設のLED化など省エネルギー対策の促進や、太陽光発電設備の導入を考えていますということで答弁させていただきました。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

今のは答弁ですか。考えていますというのは答弁であるなら何でもそう答えますよ。もっと具体的に答えていただきたいんですよ。もっと具体的に。例えば、これはやる、これはやれないとかね、そういう答えが実は欲しいんですよ。このあたりいかがですか。今、実際に検討しているところありませんか。検討しているものは。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

○説明員（大井一郎君） 具体的に公共施設の照明のLED化につきまして、手賀沼課と資産管理課と学校教育課のほうで、どのようにしたら取り組んでいけるかというところを協議しているところです。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

あまり理解がされていませんけれども、それはそれとして、お答えいただいたということになります。

その前に、最初にお答えいただいた9万円から8万円に減額をした。減額をせざるを得ませんで

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

したというふうにお答えいただきましたけれども、減額をせざるを得ないその理由がはっきりしていませんね。そこら辺について、いま一度、詳しくお願いします。9万円から8万円ですよ。9,000万円じゃないですよ。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。中光啓子財政部長。

○説明員（中光啓子君） 今回は予算編成の関係で、経常経費の圧迫ということもありまして、いろんな事業を見直すということで各課に依頼をかけております。そういった中で、こちらの太陽光の補助が必要ではないという判断ではないんですけれども、いろいろな各課での補助の政策なんかも含めまして、何を優先して何を実施していくかというところの中で、今回、この太陽光につきましては、県からの補助も今はないという中で市単独で全額を出すというのは厳しい状況になりましたので、今回の予算編成では1万円減額ということで決定をさせていただいているところになります。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

[岩井康君登壇]

○岩井康君 ありがとうございます。

そうしますと、太陽光発電に対する位置づけが極めて弱いというふうになりますね。市全体から見たら9万円から8万円にするというのは極めて弱いですよ。ここら辺を、地球温暖化の問題なんですよ、もう一方では。我孫子もそれに後れないように、ぜひ、それぞれ頑張ってもらいたい。いろいろ大変だと思います。思いますけれども、やっぱり、ここだけは外せないというのはあると思うんですね。

ですから、ここら辺については、9万円を1桁上にしろと言っているんじゃなくして、ここら辺について、ぜひ検討していただいて、やはり一生懸命頑張っている皆さんが、その力をそぐんではなくて、むしろ後ろからバックアップすると、そういうことが必要なんではないでしょうか。そのあたりについて、お答えいただけますか。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。中光啓子財政部長。

○説明員（中光啓子君） 今回は厳しい財政状況の中、こういったところでの削減ということになりましたけれども、決して地球温暖化に対して私たちも危機感を持っておりますし、いろんな形の温暖化対策というのがありますので、総合的に判断してよりよいものになるように、財政の部分、それから、自然エネルギーの活用の部分、トータル的に判断しながら、今後も予算編成に努力していきたいと思います。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

[岩井康君登壇]

○岩井康君 ぜひ、よろしくお願いします。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

それから、答弁の中で第三者所有の問題ありましたね。これ、もうちょっと詳しくお願いできませんか。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

○説明員（大井一郎君） 第三者所有について、これまで市では太陽光発電設備を自らの費用を投じて設置する自己所有方式で行ってきましたが、設置費用などが高額ということの問題があり、なかなか設置が進まない状況でした。

現在、検討を進めているのは、PPA方式となります。第三者所有と言われる導入手法の一つで、太陽光発電事業を行う事業者が施設に設置と維持管理などを行い、施設側、自治体側になりますけれども、発電した電力のうち使用部分を支払うものです。これまで県内では、千葉市や市川市など複数の団体がこの方式で太陽光発電設備を導入しています。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

[岩井康君登壇]

○岩井康君 ありがとうございました。

先ほどの財政部長からの答弁もありましたけれども、ぜひ、前向きに検討をよろしく願いいたします。

続いて、大綱3に移ります。我孫子市の国際化についてです。

この昨年の選挙でも、今年選挙でも、いわゆる排外主義、排外主義といいますか、そういう点で外国の方が何か悪いことの元凶であるみたいな、そういった動きといいますかね、そういうのがありましたね。実際はどうなのか。日本人だって悪いことやっているんですから、そんな外国人だけを取り上げてというようなのをやられちゃうとどんなもんかなと、私なんかは思っています。

そういう点では、我孫子市は、後で申し上げますけれども、物すごく早い時期から外国人の方々の対策をやっているんですね。そういう点では非常にほかのところに比べれば進んでいると言えるのではないかと思います。

市内の小中学校に2023年では、令和5年5月1日現在で106名の外国人児童生徒が在籍しています。日本で暮らす外国人の数は、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の影響による一時的な減少はあったものの、長期的には増加傾向であり、2023年（令和5年）6月末には約32.2万人と、これまで最も多くなっています。我孫子市でも外国人は、2023年（令和5年）12月1日現在で2,909人、2025年（令和7年）では、2月1日現在で3,644人、2026年（令和8年）2月1日付では4,841人と過去最多となっています。

最近、外国人に対して意図的とも言えるような誹謗中傷が行われ、問題の多くが外国人に起因するかのように外国人を排除、敵視する動きが急速に強まっています。現政権の失政も外国人のせいにするなど、大変な問題です。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

我孫子市は、1992年（平成4年）に国際化推進基本方針を策定しました。これは改訂版でありますけれども、これだけの厚さのものをしっかりと出しているんですね。また、国際化を推進する組織として、市内の3つの国際交流団体と一体となって、我孫子市国際交流協会AIRAを設立しました。2024年（令和6年）4月には、多文化共生という新たな国際化の在り方を踏まえた、第三次国際化推進基本方針を策定し、国際交流の積極的推進、市民の国際性を育む環境づくりの推進、外国人も暮らしやすいまちづくりの推進、行政の国際化の推進の4つを基本方針に掲げ、AIRAとともに地域の国際化に取り組んできました。

このように、市は34年前から国際化についての方針を掲げ、取り組んできました。布佐では、最近、すし屋さんの後に外国の方のコンビニがオープンして、規模は大きくはありませんけれども、少しずつお店が増えています。

そして、4点お伺いします。

1つ、外国人の社会保障について。

これは例として国保などがどうなっていますかということであります。

2つ目は、市内における外国人の就業状況について。

これは、私の事務所の前のコンビニでは、ほとんど全員が外国人の従業員です。胸に国の名前を書いたプレートをつけています。日本語も上手で、金銭の計算も早く、なかなか優秀です。さらには、国際化基本方針、これの14ページ、外国人職員の登用のところでは、消防職員を除くとして、実際には職員の登用を行っています。そして、さらに国際化基本方針の16ページ、これは教育委員会の関わりですけれども、グローバル化、多様な言語の指導、ALTですね、このあたりが実際には書かれております。

そして、3番目として、地域社会との円滑な生活——実際には現在も進められていますが——のスピードアップ（ごみの収集など）。

実際には、布佐地区社協では、非常にきれいなチラシといますかね、こんなきれいなチラシを作ってやっているんですね。この中には、ネパールの方のステージ、そして、アフリカの太鼓と舞踊、こういったことも取り上げながら地域の方々とのコミュニケーションを図っていくと、こういうことが実際に進められています。こういうことで、私も3月7日には、ぜひ行ってきたいと思っています。そういう点で、こういったことなんかについても、市はどのように関わっているのか、こういう点についても、ぜひお知らせいただきたい。

そして、4番目は、外国人児童生徒への新たな施策について。

これも16ページ、国際化基本方針として教育委員会、グローバル化と多様な言語の指導ですね、ALTの問題。こういったことが書かれていて、非常に一つ一つ具体的に書いているんですね。

こういったことがありますので、ぜひ、まず、この4点についてお答えをいただきたいと思いま

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

す。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。飯田秀勝健康福祉部長。

〔説明員飯田秀勝君登壇〕

○説明員（飯田秀勝君） アについてお答えします。

社会保障制度は、国民の安心や生活の安定を支えるセーフティネットです。社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生の各分野から成り、子どもから子育て世代、お年寄りまで全ての人の生活を生涯にわたって支えるものです。社会保障制度は多岐にわたり、国のみならず都道府県や市町村など、様々な主体がそれぞれに役割を担い連携しながら実施しています。

外国人の社会保障制度については、各分野で一定の条件はありますが、基本的には日本人と同様の適用が受けられることになっています。

一例として、国民健康保険は、日本に3か月を超えて滞在する外国人は、職場の健康保険などに加入している場合を除き、住民登録のある自治体で国民健康保険に加入する義務があります。国籍に関係なく日本に居住する全ての方に適用され、日本人同様に医療や給付を受けることができます。引き続き、市では外国人の国民健康保険加入等の手続を適切に行っていきます。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。中光啓子財政部長。

〔説明員中光啓子君登壇〕

○説明員（中光啓子君） イについてお答えします。

市内における外国人の就業状況は把握しておりませんが、令和7年1月1日現在、我孫子市に住民登録がある就業の可能性のある外国人として、納税義務者数は1,946人となっています。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。大井一郎環境経済部長。

〔説明員大井一郎君登壇〕

○説明員（大井一郎君） ウについてお答えします。

外国人の地域社会との円滑な生活において、ごみ出しを含めルールを正しく理解していただくことが重要と考えます。

市では、外国人に対するごみ出しのルールの周知について、市のホームページにおいて英語、中国語、韓国語、ベトナム語で、ごみの排出ルールの周知を行うとともに、市民課や各行政サービスセンターの窓口で、英語、スペイン語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語を表示した外国語版ごみの分け方・出し方の資料をお配りしています。また、市内の日本語学校などにおいても、ごみの分け方や出し方などの周知をお願いしています。

なお、外国人のごみ出しルールが守れていないなど相談が寄せられ、原因者が特定される場合は、市の職員が原因者を訪問し、ごみの出し方について御説明を行っています。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。佐藤和文教育総務部長。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

〔説明員佐藤和文君登壇〕

○説明員（佐藤和文君） 私からは、エについてお答えします。

我孫子市の外国人児童生徒は10年前と比較すると倍以上に増加しており、令和7年の5月1日時点で125名です。我孫子市では帰国・外国人児童生徒1人につき週3回、4か月間、学校へ通訳の配置をしています。通訳は帰国・外国人児童生徒とともに学校生活を送ることで、言語による困難さだけでなく、日本の文化や学校生活に慣れるための支援となっております。

また、市内小中学校に編入・転入してきた日本語を理解することが困難な児童生徒にA I R Aから日本語指導者を派遣し、特別な教育課程による日本語指導を実施しています。

各学校においては、外国人児童生徒の習慣、服装、食事など文化の違いについて、きめ細かく配慮して対応しています。また、外国人児童生徒を担当する教職員向けの研修に参加するなど、指導者としても研さんを積んでいます。

国際教育という視点から、各学校において道徳や外国語等の中で多文化理解を深め、外国人を含む他者理解について学習します。

その一例として、高野山小学校では千葉県国際交流センターに依頼し、6年生対象に「世界の扉プロジェクト「多文化共生出前講座」」を実施しました。大変、有意義な学びができたという国際理解教育の効果が報告されています。その様子は学校ホームページにも掲載されております。

これまでどおり帰国・外国人児童生徒教育に関する施策を継続していくとともに、高野山小学校のような取り組みの効果を他校へも広め、外国人の子どもたちも日本人の子どもたち同様、国際社会に生きる人材として自立して学び働くことができるように教育を進めてまいります。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

ごみの収集については、こういったチラシを作って外国の方にも渡して、最近では布佐の駅前で600枚かな、700枚かな、配ったというふうに聞いております。ですからそのように、特に布佐の場合は川向こうに外国人学校がありますから、その関係もあって非常に外国の方が多いというようなことで、そういったことで生かしていこうということだと思えます。

それと、今、4番目の外国人児童生徒への新たな施策についての話ですが、多様な言語の指導、これが現在でもやっているのに、さらに加えなきゃならないというような状況だというふうに報告を受けているんですけども、このあたりはいかがですか。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。佐藤和文教育総務部長。

○説明員（佐藤和文君） 多様な言語というところでは、確かにいろいろな国の子どもたちが学校には通っているわけですけども、通訳とか、そういった翻訳の関係では、今、1人1台端末のイ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

インターネットの翻訳サイトを使いながら日本語の理解をしているところなんですけれども、そういったことでよろしいですか。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ちょっと分かりにくかったんですけど、もう一度、ちょっと大きな声でお願いできますか。

○議長（日暮俊一君） 質問をもう一度ということですね。

○岩井康君 改めて質問します。

実際に、今、学校ではALTとかいろんなことで、先生をつけて外国語の勉強をしているわけなんですけれども、それもそれではなくて、さらに増えてほかの国の言語が入ってきているというようなことなので、そこら辺に対する対応が必要なんではないかというふうな声が聞かれるんですけれども、このあたりは実態はどうなんだろうということなんです。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。丸智彦教育長。

○説明員（丸智彦君） 恐らく教科の中の外国語ということを行っているのであれば、今、我孫子でやっているのは英語をやっていますので。あと、実際に入ってくる子に関しては多様な国からいろいろ入ってきます。その子に関しては先ほど部長が言ったように、1人1台端末のネットの翻訳、そちらのほうで対応しているというところなんです。入ってくる子に関してはそういう対応をしているし、実際に外国語の学習に関しては、今、英語を使っているというところなんです。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

そうしますと、状況によっては民間との連携をしながらということも考えられますよね、実際には。AIRAなんか実際に協力関係でやっていくとか、そういったこともお答えとして聞いてよろしいんでしょうか。じゃ、そのように受け止めさせていただきます。

そういう点で、実際にはこの外国の方々が安心して生活できるように、そして、ともすると日本人の方が、外国人の方って声が大きいんじゃないですか。声が大きいし、やっぱりいろいろ何ていうんですか、心配なのかしれませんが、3人、5人と固まって行動しますよね。狭い道なんかだと塞いじゃうんですね。そんなことで、怖いという声が聞かれるんですね。

そんなことも少しずつ払拭して、このさっきの布佐のあれじゃありませんけれども、ぜひ安心して一緒に生活できるようにしていただきたいと思うんですね。

そういう点で先ほど、ちょっと、これについて、市はどのようにかんでいますかというふうに聞きましたけれども、そのお答えはもらっていませんよね。どちらがお答えするのか分かりませんけ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

れども。社協の関係ですからね。だからちょっと市民のほうかな、じゃないですか、これ。

これ、なかなかいいですよ。実際、こういうふうなことまでやれるというのは。大変なことですよ。だからこれもぜひ市のほうも関わっていただいて、そして、やっぱり市としてどういう援助ができ、また、どういう形で実際に関わっていくのか。これらについて、ぜひ、検討をしていただきたいと思うんですね。このあたりはいかがでしょうか。どなたかお答えいただけませんか。副市長ですかね、そうなるよ。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。渡辺健成副市長。

○説明員（渡辺健成君） 社会福祉協議会とかまち協さんに関しましては、外国人というわけじゃなくて、いろんな部分で市のほうは支援しておりますんで、その中で、各地域の方が地域の方についていろいろ課題解決というようなことでいろんな取り組みをされていることと思います。

また、外国人の方につきましてはA I R Aのほうで、あびこ国際交流まつりというのを毎年11月末にやっています。その中では、様々な国の方がいろんな自分の国の伝統文化とか、そういったものを披露していただいたり、逆に日本の着物だったり、お茶を楽しんでいただいたり、そういった交流もしておりますので、いろんなところでいろんな分野で外国人との交流はしていると思いますので、先ほど言いましたように社協とかまち協さんについても、独自で進めている部分については完全に把握し切れていない部分もあるかと思いますが、いろんな面で協力して支援はしているというふうに思っております。

○議長（日暮俊一君） 岩井康議員。

〔岩井康君登壇〕

○岩井康君 ありがとうございます。

ぜひ、これは布佐に限らず、やっぱり我孫子市全体で取り組んでいくといいますか、そういった課題だろうと思うんですね。国際化ということでもありますから、ぜひ、これらについても我孫子市は34年前からやっているんですから、実際にこれを生かしていくことがどうしても必要だろうというふうに思います。

私のほうからは以上であります。ありがとうございます。

○議長（日暮俊一君） 以上で岩井康議員の質問を終わります。

清風会代表甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 清風会の第2代表を務めさせていただきます甲斐俊光です。

先日、澤田敦士議員がすばらしい代表質問をしていただきましたので、私はこぼれた部分を第2代表といたしまして、させていただきたいと思います。午前3時まで2人で話し合ったわけですが、彼にとっては夜ですけど、私だって朝でして、朝早く起きてこちらの答弁検討というか、

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

質問に対して検討させていただきました。

私も自民党に属していきまして、衆議院選挙におきましては自民党も316議席を取りましたが、決して喜ばしいことではなくて、私、尊敬いたします東照宮御遺訓によりまして、「及ばざるは過ぎたるよりまされり」ということで、及ばざるほうがいいということでございます。また、「人間万事塞翁が馬」という言葉があります。よい悪いというのは、その時によって分からないということでございます。非常に私にとっても、不安な船出だなと思っております。

そこで、こちら、代表質問に入りたいと思います。

まず、大綱1番目、文字モニュメントにおきまして、シビックプライドについて質問いたしたいと思っております。

手賀沼は、我孫子市民の誇りであり、手賀沼公園や手賀沼親水公園におきましては、多くの市民や観光客が訪れる観光資源となっております。しかし、市外の方々や市民の方々によりましては、観光客におきましては風景はよいがSNSで発信するような決定的なスポット、いわゆるフォトスポットがないと言われております。

そこで1番目、質問したいと思っております。

国内各地の観光地におきましては、地名をかたどった文字モニュメントを作ることによりまして、大きく観光に期しているところがございます。例えば神戸港に設置しておりますBE KOBEという文字モニュメントもあります。また淡路島のAWAJIというのがあったりですとか、CHICHIBUというような文字モニュメントもあります。こちらは、SNSを通じた自発的なシティプロモーションによりまして、成功している事例と思われまして。

本市におきましては、手賀沼を背景といたしましたABIKOやTEGANUMAといったようなアルファベットを用いました文字モニュメントを設置することで、来訪者の満足度向上と、また、インスタグラムなどによりましてSNSの自発的な本市の認知度向上、そして、我孫子を誇りに思ってもらえるようなシビックプライドを醸成してはと思っておりますが、いかがでしょうか。

2番目です。設置場所につきまして。

モニュメントの設置に当たりましては、手賀沼の美しい自然環境を損なうことなく、かつ、野鳥や水面、夕景などをバックに文字モニュメントを設置するのがいいかと思っております。そちらを戦略的に考えますと、例えば手賀沼公園などは多くのドラマや映画のロケ地などにも使われております。こちらに設置をするとSNSなどとも親和性が高いのではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

続きまして3番目、この事業に関しましては、単なる行政主導の施策にとどまらず、デザイン公募における市民参画やふるさと納税の新たな使い道としての活用、もしくは地元企業や市民への寄附、またネーミングライツを募るなど、行政主導にとどまらず、官民協働での推進も検討の余地が

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

あると思いますが、いかがでしょうか。

私が考えますのは、手賀沼をただ眺める場所というよりかは、記憶と記録に残るような場所へとアップデートいたしまして、我孫子市民にシビックプライドを持っていただき、市外の方々にとりましては、こちらを選ぶまち、選ばれるまち我孫子としての魅力を発信していくことが重要だと考えますが、いかがでしょうか。当局のお答えを求めます。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員の質問に対する当局の答弁を求めます。星野順一郎市長。

〔市長星野順一郎君登壇〕

○市長（星野順一郎君） （1）から（3）まで、あわせてお答えをいたします。

アルファベットの文字モニュメントの設置は、近年、SNSの普及に伴い、観光地などに設置をされ人気を博しています。秩父駅前に一昨年、秩父市が設置したCHICHIBUの文字モニュメントは、横幅が4.5メートル、高さが1.3メートル、伝統の祭りをモチーフにした和風の造りで、LED照明によって夜間も光の演出が楽しめるデザイン性の高さが人気を呼んでいます。

千葉県内では、御宿海岸中央海水浴場にカラフルなONJUKUのモニュメントがありますが、御宿町観光協会の若手経営者たちが企画・制作をし、8年前に設置をされたと同っています。海を背景にシンプルながら目立つデザインで、SNS映えする写真が撮れる観光スポットとして市民や観光客から親しまれ、にぎわっていると聞いています。

一方、我孫子市においては、人が集まる手賀沼公園や手賀沼親水広場、遊歩道に、ABIKOやTEGANUMAといったモニュメントなどはなく、どこで撮影した写真か分かりにくいといった声をいただいています。秩父市や御宿町のような事例からは、文字モニュメントは観光誘致のみならず、市民のシビックプライドの醸成にも効果があると考えておりますが、設置やメンテナンスには多額の費用が見込まれます。

また、設置する場合には、御提案の官民連携の取り組みも視野に入れながら、御宿町のような民間事業者主体がいいのか、幅広く寄附を募る方式がいいのか、さらには市制施行60周年の記念事業として取り組む案など、様々な手法が考えられることから、手賀沼観光のフォトスポットとして、SNSを使ったにぎわい創出にもつながる手法について、今後、検討していきたいと考えています。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 御回答ありがとうございます。

こちら、こういう日経新聞にも出ていたCHICHIBUとか、DO SAYOだとか、今、非常にいろんな多様なものが出ています。

例えば、こちら、青森県でしたら、ちっちゃな手に乗るようなAOMORIといったような、HIROSAKIとかいうのもありますよね。OMAだとか、小さいサイズから始めることできるん

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

ですね。ちょっと、市長の言われた60周年という、あと5年かと思うと結構なタイムスパンがありまして。4年といってもタイムスパンがありまして。言ったように、例えば寄附金でやってもいいかなとも思いますし、デザインだとかも民からも始めていいのかなと思います。

この提案は前から、私、いただいております、我孫子に住んでいる制作関係のプロデューサーがいらっしやいまして、我孫子にこういうのを作りましょうよって、企画書も私は渡されたんですけども、ちょっと、うちのNPOじゃ資金が足りなくてやらなかったんですけど。こういうのがあると、やはりSNS映えするなと思うんですね。ちょっと回転を早くして、例えば試しにふるさと納税でやってみるだとか、いろんな民間に声かけてみるのもあっていいかと思うんですけど。もう一度答弁お願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。高見澤隆企画総務部長。

○説明員（高見澤隆君） 市長のほうからもお答えさせていただいたんですけども、費用の面というところで市長は申したんですけども、参考までに秩父とかですと、観光課に確認したところ1,500万円ぐらい投じているというような状況もございました。

そんな中で、民間事業者に御協力をいただくとか、寄附のお答えもさせていただいたんですけども、手法は様々あると思いますので、市長も申したように私ども魅力発信室のほうが中心になって、観光のほうとも連携をしながら、まず、いろいろな手法、議員が今おっしゃられた小さいサイズというお話もございましたので、その辺も含めまして検討は重ねていきたいというふうに思っております。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 ありがとうございます。

今回の一つのきっかけは、五本松運動広場におきましてABIKOって書きましたよね。あそこにシビックプライド醸成って書いてあったんです。あ、なるほどなど、ABIKOって文字を見るだけで気持ちが躍るといふか、シビックプライドが出てくるんだなと思ったわけですね。それで、今回、ちょっと質問を入れてみようと思ったわけで。せっかくそういう運動広場の整備もありますから、一緒にやってはいいかなと思っております。

次にいきたいと思います。

大綱2、フードバンクと食品ロス削減の推進につきまして。

1点目、いきます。昨今の物価上昇の影響を受けまして、生活困窮世帯や子育て世帯における食のセーフティネットの重要性はますます高まっております。市内で活動するフードバンク団体や子ども食堂は、草の根活動を中心といたしまして支えてくれておりますが、ボランティアとしての活動ですので、こちら、食品の保管場所の確保や配送、また、継続できる食品の流通などで苦勞して

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

いると聞いております。

そこでお伺いいたします。

本市におきます生活困窮世帯や子どもの貧困の現状及び相談窓口に寄せられました食料支援要請の推移を、どのように認識されているのか。

そして、また、現在、市内で活動する民間団体に対しまして、どのような支援を行い、その活動につきまして、どのような現状認識を行っているのか、お知らせください。

次に2点目、いきます。市民の皆様方から何か協力したいが、どこに食品を持っていったいいのかわからないといったような声を頻繁に耳にします。現在、市でもフードバンクちばさんやNPO法人のアビーズさんなどが年に数回、期間を限定してフードバンク事業を行っておりますが、支援の輪を広げるためには日常的に寄附できる仕組みが必要だと考えます。

そこで、市役所庁舎や近隣センター、また、公民館などでフードドライブ回収ボックスを設置できないかといったことを提案いたします。今、現在、市職員を対象といたしましたフードドライブ事業を行っているのは存じております。これを市内企業などにも広げられないでしょうか。市の前向きな答弁を求めます。

3点目、いきます。市内農家の生産過程で発生します味には問題ない規格外農産物、野菜等をフードバンク団体に円滑につなげるためのマッチング支援は、農業振興や福祉の両面から極めて有効だと考えます。また、市内小売業者に行政が主導となりまして、レトルト食品などの寄附を呼びかけるなどの事業も考えられます。さらに、協力いただいた市内企業に関しましては、市として感謝状の贈呈や、また、SDGs認定企業として認定を行うなど、民間企業が参画する動機となるような、そんな施策が必要だと考えます。その点について、いかがでしょうか。

次、4点目、いきます。せっかくの支援も、届くべき人に届かないと意味のないものになってしまいます。市の広報紙や公式SNSなどを利用いたしまして、寄附の方法だけではなく、どこへ行けば食品を受け取れるのかといった情報をより分かりやすく発信すべきだと考えます。同時に、社会福祉協議会や民間団体、そして、我孫子市が一体となりました我孫子版食のネットワークというものを構築いたしまして、情報の共有や、また、余った食材の融通などをスムーズに行うようなシステムが必要だと考えますが、いかがでしょうか。お答えをお願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。飯田秀勝健康福祉部長。

〔説明員飯田秀勝君登壇〕

○説明員（飯田秀勝君） 初めに、（1）についてお答えします。

市における生活困窮世帯や子どもの貧困の現状は、2月1日時点での生活保護世帯数1,303世帯、受給者数1,561人、うち18歳以下は113人となっています。社会福祉課の生活相談窓口寄せられる食料支援に関わる相談延べ件数の推移は、令和元年度62件、令和2年度61件、

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

令和3年度20件、令和4年度22件、令和5年度28件、令和6年度51件、令和7年度は1月末時点で61件となっています。

令和3年度から令和6年度までは、国の方針で行われた低所得世帯対象の給付金事業の現金給付の支援により相談件数が少なくなっていたと考えられますが、今年度は給付金事業がなく、物価高騰の影響も重なり、相談件数が増加していると思われます。

食料支援の相談を要する世帯は単身世帯が多く、生活保護の基準を超える収入がありながら家計管理に課題があり、月途中で生活費がなくなり食料を購入できないという事態に陥る傾向があり、家計改善支援事業の利用につなげるなどして生活破綻を防ぐ相談支援を行っています。

フードドライブを実施している団体への市の支援については、後援、広報、ホームページ、SNSを活用し、活動に対する市民への周知を図っています。また、市職員を対象にフードドライブを実施し、フードバンクちばの受取団体に寄附をしています。

何らかの事情で食料を購入できなくなった世帯に対し、フードドライブ、フードバンクの活動は支援の一つとして重要であると認識していますので、活動団体に対する支援は今後も継続していきます。

次に、（2）と（3）についてあわせてお答えします。

市では、社会福祉課相談窓口で食品回収ボックスを常設しており、食品等の寄附をいただいた個人や企業に対してお礼状をお渡ししています。また、社会福祉協議会では、たすけあいバンク我孫子として、各地区社協、ボランティア市民活動相談窓口で・と・り・あ、福祉ショップ&軽喫茶ぼらでフードドライブの受け取りを常に行っています。そのほかのフードドライブを実施している団体の受け取り窓口についても、市内各所で受け取りしていることを、引き続き、ホームページで案内していきます。

農家からの農作物の寄附や独自にフードドライブを行っている企業、スーパーからの食料品は、我孫子市子ども食堂ネットワークの事務局である社会福祉協議会を介し、子ども食堂団体に提供され、子どもの貧困対策に協力が得られています。

最後に、（4）についてお答えします。

家庭で余っている食品を受け付け・回収するフードドライブについて、ホームページ等で情報発信を、引き続き、行っていきます。どこに行けば食品を受け取れるのかという情報提供については、食料の支援を求める方は、食料が購入できないこと以外にも複合的な問題を抱えている可能性が高いため、市の生活相談につながるよう情報発信し、福祉サービスの案内とあわせて食料提供へつなぐ支援を行います。

市では、引き続き、フードドライブへの活動支援、各団体との連携や情報共有などを行っていきます。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 ありがとうございます。

最近の新聞でもあったんですけども、エンゲル係数のグラフがあったんですけども、去年からエンゲル係数が急に上がってきて、今年になって29%になったということで、実は1988年の水準と同じらしいんですね。要するに、家計に対する食費の割合がすごく高くなっているということで、我々が知らない間に母子家庭だとか、やっぱり子どもが小さい家庭だとか、物すごく苦しい家庭が多くなっているという現状をやっぱり感じます。

いろんなところで回収ボックスもやっていると思うんですけど、言ったように、公共施設のほうが、やはり、行きやすいんですね。行きやすいし、気づきやすいので、公共施設のほうでも近隣センター、役所とか行政サービスセンターもあります。そういうところでもやっていただきたいなと思っております。

本当にどこでもらえばいいのかというのがなかなか分かりづらいという話も聞きます。私も子ども食堂をやっているんですけども、本当に貧困の家庭の方ってなかなか来づらいというのがありまして、普通の家庭のほうが多くて、そこまで届いていないなというもどかしい思いもしますので、ぜひとも、そういう支援をちょっとやっていっていただきたいなと思います。すみません、もう一度御答弁をお願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。飯田秀勝健康福祉部長。

○説明員（飯田秀勝君） 今、質問にもあったとおり、貧困者数が増加しているような状況ですので、こういったフードドライブ、フードパントリーとかの必要性というのが高まってきていると感じております。

市のほうでは、今後も、「広報あびこ」でこういったフードバンク関係の特集を組んで、まず、大きく周知をしていきたいと思っております。それで、今の御質問にもありましたが、本当に必要な方にそれが届くこととあわせて、その必要な方がやっぱり困っているいろんな原因があると思っておりますので、そこを御相談、我々の社会福祉課等につながるような形にしていくように取り組んでいきたいと思っております。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 飯田部長、ありがとうございました。

続きまして大綱3点目、道路行政について質問したいと思います。道路交通法改正ですね。

4月の道路交通法改正の実施により自転車への取締りが厳しくなり、反則金、青切符制度が導入されます。これは、近年、高齢者や子どもが自転車事故に巻き込まれることや、また、自転車側の

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

重大過失が増加傾向にあることが背景にあります。この改正によりまして、自転車というものが気軽に乗れる車両というものから、危険性を伴う軽車両へと大きくかじを切る改正となってまいります。今回の改正によくある反則事例といたしましては、ながらスマホ1万2,000円、逆走・信号無視6,000円といった反則金が課されます。

こういったことを具体的に示しまして、罰則金と危険性をセットで説明することが大事になります。罰則強化だけではなく、こちらだけを強調すると市民の反発を招くことになりますので、安全確保が目的であることを丁寧に説明することが重要になってまいります。誤解をなくするため、自転車は車両であり、車道の左側通行が原則ですが、全部取り締まるわけではなく、交通事故の原因になるような悪質や危険性のあるような運転を取り締まるといったような法律の趣旨を明確に示す必要があると考えます。

特に注意すべき層といたしましては、通学で使う中高生や情報弱者である高齢者、また、言語の壁がある外国人などが挙げられます。この点につきまして、学校や高齢者団体、また、PTAや語学学校など、直接、また、積極的な説明を行ったり、ホームページや広報、また、SNSなどで詳細に伝えてはいかがでしょうか。お答えをお願いいたします。

次の点、いきます。こちら、警察の取締りの強化だけではなく、行政がインフラ整備をすることも大事になってまいります。軽車両である自転車が走行するためには、自転車走行レーンの整備や、また、路面表示の明確化が必要になってまいります。市内に自転車が道路交通法を守りづらい交差点や道路がありますでしょうか。この改善がないと、走る場所がないのに罰金といったような不満がでやすいように感じます。この市内道路の整備につきまして、どのように考えているのか、お示してください。

また、ウですね。制度開始直後は、実際に取り締まる警察ではなく、文句の言いやすい行政への不満がたまると思われられます。禁止とは知らなかった、なぜ自分だけ、歩道を走るしかないといった問合せが増えることが予想されます。Q&Aの設置や、また、窓口職員への研修が重要となってまいります。この点につきましてはいかがでしょう、お答えをお願いいたします。

また、次の点。今回、自転車だけではなく、実際に国道356号線のような狭い国道を走るときに、自転車を追い越す、その場合の自動車の運転手も問題になってまいります。自転車という軽車両が車道を走っているときに、追い越そうとしますと黄色い車線があります。この黄色い車線を超えないといったような自動車運転者側のルールの徹底も必要になってまいります。この点についてお答えをお願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。海老原正建設部長。

〔説明員海老原正君登壇〕

○説明員（海老原正君） 初めに、アについてお答えします。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

道路交通法の改正を受けて、市ではホームページで制度の概要を周知するとともに、警察が取締りなどの考え方を示した自転車ルールブックを掲載したほか、広報あびこ 3月1日号やSNSによる情報発信を行いました。

また、学校への取り組みとしては、我孫子警察と連携し、小中学校を対象に交通安全教室を実施しており、講話やDVDによる講習、実技指導を通じて、児童生徒の自転車を含む交通ルールへの理解と習得に努めています。そのほか、千葉県警察から千葉県教育委員会に対し、高校を含む県内の教育機関等において、自転車ルールブックの周知と活用を図るよう依頼しているとのこと。

大人を対象とした取り組みについては、自治会向けに作成している自治会便利帳に、新たに県の交通安全教育推進員派遣制度を掲載し、3月中旬に発送を予定しています。この派遣制度は推進員が講話や講習を行うもので、自治会などで活用していただきたいと考えています。

外国人への取り組みについては、市ホームページに出入国在留管理庁が多言語で自転車のルールを含む基礎的情報を取りまとめた生活就労ガイドブックを掲載し周知していきます。

今後も関係機関と連携して、自転車交通ルールの周知に努めていきます。

次に、イについてお答えします。

市内道路の自転車走行環境のインフラ整備については、今後、策定を予定している自転車活用推進計画において整備計画を定め、自転車が道路や交差点を安全に通行できるよう、矢羽根型路面標示などのインフラ整備を進めていきたいと考えています。

次に、ウについてお答えします。

法改正後の問合せなどに備えて、所管課では改定ポイントの資料を作成し情報共有を図るとともに、適切な対応ができるよう体制を整えていきます。

最後に、エについてお答えします。

自動車自転車の右側を通過する場合には、十分な間隔がないときは安全な速度で進行しなければならず、重大事故につながるおそれがあると判断された場合は取締りの対象になります。なお、黄色のセンターラインをはみ出しての追越しや、追越しが禁止されている道路での追越しは、これまでと同じく禁止されていますので、誤解のないように注意が必要です。これらの情報については、市ホームページに掲載するとともに、3月2日にSNSでも発信し周知を図ったところです。

今後も誰もが安全に自転車を利用できるよう、引き続き、様々な媒体での周知啓発を行っていきます。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 私も日頃、車より自転車のほうが多く乗っていますので、非常に心配な道路交通法改正ですけれども、4月に混乱も起きやすいので、SNSの告知も私も見ましたけれども、フェイ

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

スブック、Xなどでも出ていまして、見ましたけれども、それもちょっと頻繁に行っていただきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

次、2点目いきます。天王台駅の北口ですね。

市内のタクシー業者の廃業や、また、業務の縮小から天王台北口にはタクシーがほとんど停車していない状態になっております。令和7年8月下旬から一般車が無断で駐車してしまうことや、長時間、駐車してしまう車がありまして、これに対しては警察が取り締まれないといったこともありまして、タクシー待機場を閉鎖しております。こちらは市有地であります、その後の利用については、まだ、決まっておりません。

天王台北口ロータリーはタクシーも止まらず、夜間のバスの運行本数も少なくなってきております。ですので、夜、特に昨日も雨の日の夜でしたが、通勤通学の送り迎えなどで非常に車が多く行き来し、また、バス停留所と分かれているわけではありませんので、事故のおそれが非常に大きい危険な場所となっております。

タクシー駐車場の利用、迎えの方の一方的な停車により待機場が閉鎖されていることは理解しております。しかし、事故防止のため、また、市民の利便性向上のために市有地の利用を工夫していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。お答えをお願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。海老原正建設部長。

〔説明員海老原正君登壇〕

○説明員（海老原正君） 天王台駅北口ロータリーのタクシー待機場については、短時間駐車や送迎の待機など利便性を評価する意見がある一方で、駐車車両の多さや長時間駐車を懸念する意見が市に寄せられていました。これを受け、令和5年度から我孫子警察と連携し、パトロールによる駐車車両への指導を継続的に行いましたが、残念ながら改善は見られませんでした。また、ロータリー周辺には時間貸し駐車場があり、一部の市民からは、時間貸し駐車場を利用する市民と比較し、公平性やモラルの点で問題視する意見が寄せられていました。加えて、待機場から駅や周辺店舗に向かう歩行者は、横断歩道のない車道を横切る必要があり、路線バスなどとの接触事故の危険性も指摘されてきました。これらの状況を総合的に勘案し、市民の安全確保及び公平性の維持を図る観点から、令和7年9月1日にタクシー待機場を閉鎖しました。

一方、閉鎖後に、ロータリー内の待機車両が増加していることは市においても確認しており、対策の必要性を感じています。また、市民の皆様からは、送迎車の待機場としての開放を求める声が、複数、寄せられています。このため、現在、当該用地を送迎車などの一時待機場として活用する方策を検討しており、我孫子警察と利用形態や安全対策について協議を進めているところです。

引き続き、関係機関と連携を図りながら、令和8年度中の一時待機場としての利用開始に向けて取り組んでいきます。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 ありがとうございます。前向きな検討をお願いいたします。

また一つ、ロータリーに入る前の左側の駐車場が住宅になるということで駐車場もなくなるので、天王台北口に、また一つ大きな駐車場がなくなりますので、ますます止めづらい。コインパーキングに止めろって言っても止める場所がないんですよ。止める場所が、また、なくなってくるので、向こうの福太郎さんだとか、マンションもできてしまいましたし、ますます一時的に止める場所がなくなって不便を感じておりますので、よろしくをお願いいたします。

大綱4点目、子育てしやすい街・我孫子についてお話しいたします。

1点目、隠れ待機児童につきまして。

本市は待機児童ゼロを標榜いたしておりますが、保護者からは「希望している駅近の園に入れない」、また、「2歳児で保留になる」といった声も聞こえてまいります。この問題は、隠れ待機児童とも呼ばれ、自宅から近くの利用しやすい園ではなく、駅から遠い園を紹介された家庭は、園児の送り迎えで非常な負担となっております。我孫子・天王台地区に乳幼児が多くなる、地域別、年齢別の入所状況、とりわけ駅周辺地域の偏在状況をどのように認識されていますか、お答えをお願いいたします。

次に2点目いきます。

市内には、平和台病院内に病後児保育施設のこどもデイルームみらいや、名戸ヶ谷あびこ病院内にはたんぽぽルームなどがあります。共働きの世帯の増加によりまして、病児保育の需要はますます高まっておりますが、時期によっては予約が取れない、また、利用しづらいといったような利用者の声も聞こえてまいります。

そこで質問いたします。

利用しやすくなるような施策はありますか。また、病児保育の過去5年間の利用件数の推移と、また、現行体制で今後の需要増に対応できるのか、お答えをお願いいたします。

3番目、少子化が進行する一方で、子育て支援は、定住促進や人口維持政策に対しまして、ますます重要な政策となってまいります。今後、10年間の年少人口の推計をどのように保育行政に反映していますでしょうか。また、保育施策を定住促進、また、人口増加策の重要施策と位置づける考えはありますか。また、中期的な施設整備計画や数値目標は策定されていますでしょうか、お答えをお願いいたします。

4点目いきます。

4点目は、20年もの長い間、保育行政一筋で携わってまいりました星部長が御勇退されます。これまでの御尽力に対しまして深く感謝いたしたいと思っております。私も19年やっていますが、子育て

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

て施策を中心にやってきまして、何かありましたら、星部長、当時は部長でもなく、課長でもなかったんですけど、そのときからお願いしていたなという記憶があります。我孫子の保育施策のおかげで私も3人の子どもを持つことができました、十分、小学生まで育てることができました。

これまで星部長は、制度改正や、また、保育需要の変化など環境が大きく変化する我孫子市の保育行政の中で、その責任を担ってこられました。これまでの在任期間におきましては、待機児童ゼロ政策や認定こども園の整備、また、新型コロナウイルス対策、また、公立保育園から私立保育園への移行など、数多くいろんな分野をやられてきたかと思います。その中で特に力入れてこられた保育行政は何でしょうか。また、その結果としてどのような成果があったか、そして、今なお課題として考えていることを教えてください。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。星範之子ども部長。

〔説明員星範之君登壇〕

○説明員（星範之君） 初めに、（1）についてお答えします。

我孫子駅や天王台駅周辺は、交通の利便性が高く、子育て世帯の居住が多いため、保育園等への入園希望は集中しやすい状況にあります。我孫子市では40年にわたり待機児童ゼロを堅持していますが、施設の利用定員を弾力的に運用しても、年度の途中で空きがなくなり、希望どおりの入園が困難な状況になっています。

そのため、必ずしも第1希望の施設に入園できるとは限りませんが、駅周辺のみならず、地区全体や近隣地区を含むエリア内で複数の施設を選択肢として提供できるよう、こども総合計画の策定に合わせて実施するニーズ調査の結果及び実際の入園状況を踏まえ、適切に対応してまいります。

次に、（2）についてお答えします。

病児・病後児保育の過去5年間の延べ利用者数は、令和2年度が25人、令和3年度が96人、令和4年度が63人、令和5年度が66人、令和6年度は76人となっています。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降は利用者数が低い水準で推移していますが、令和元年度以前は200人以上の利用実績があり、受入れ体制は当時と変わっていないことから、今後、需要が増加しても対応は可能と考えています。

また、病児・病後児保育については、都道府県を中心としたICT化による広域連携の手法が有用とされており、令和8年度こども家庭庁予算案において主要施策として位置づけられています。

千葉県内では、市町村の垣根を越えて、どの施設でも利用できるようになり、ICT化により予約しやすくなるなどのメリットは期待されています。今後、千葉県に対し機会を捉えて導入を要望してまいります。

次に、（3）についてお答えします。

我孫子市では、令和8年1月に第四次我孫子市保育園等整備計画（改訂版）を策定し、保育ニー

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

ズの変化に応じた施設整備の基本方針を定めています。この計画では、令和7年度から令和16年度までの10年間について、我孫子市第四次総合計画の策定に合わせて実施した将来人口推計を基に保育需要量を推計し、利用定員の目標値と施設整備の方針を明らかにしています。

若い世代の定住促進や人口の維持・増加を目指すに当たり、安心して子どもを産み育てられる環境が求められることから、我孫子市第四次総合計画において基本目標として位置づけ、保育施策を展開しています。

今後も待機児童ゼロの継続を目指すとともに保育の質の向上に努め、子育てしやすい環境づくりを進めることで、定住促進及び人口の維持・増加につなげてまいります。

最後に、（4）についてお答えします。

我孫子市では、市長公約でもある待機児童ゼロ施策に力を入れ、これまで保育ニーズを踏まえ、必要に応じて保育園の整備や幼稚園から認定こども園の移行を進めてきました。その結果、40年にわたり待機児童ゼロを堅持することができました。これはひとえに議員や保育事業者の皆様の御理解と御協力があったからこそ実現できたものであり、この場をお借りして感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大に際しては、保育事業者の協力の下、保育現場の安全確保と市民の安心を守るため、感染防止対策の徹底や体制の強化に努めてまいりました。これにより、子どもたちや保護者の皆様が安心して保育サービスを利用できる環境の維持に一定の成果を上げることができました。

待機児童ゼロ施策は、市のシティプロモーションにも掲げており、市外の方々への啓発を進めることができました。このことから子育てしやすいまちとしての一定の成果があったと考えています。

一方で、今後の課題としては、市内における保育の受皿はおおむね確保されているものの、保育士の処遇改善や宿舍借り上げ制度の実施にもかかわらず、保育士不足が深刻な状況にあることです。これにより待機児童ゼロの堅持が難しくなっているため、引き続き、保育士の確保・育成が必要と考えています。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 ありがとうございます。

よく保育行政が分かってきました。これから課題ですね、私がやっぱり気になったのは、保育士が十分いろいろ寮の借り上げ補助だとか、そういうのをやっているんですけど、やっぱりこれからも保育士さんがちょっと足りなくなるんだなというのが。お隣と取り合いになったり、柏市だとか松戸市と取り合いになったりするの、どうしても、いろんな財政の面でもきつい面がありますけれども、我孫子は我孫子のいいところがありますので、ぜひとも早め早めに保育士さんを確保できるといいなと思います。

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

あと、偏在ですよ。我孫子・天王台地区どうしても偏在してしまうので、次の大綱5にも関わってくるんですけども、やっぱりちょっと小規模のなんかを、マンションの下だとかにも作ってもいいのかなとも思っております。

続きまして、大綱5点目にいきたいと思います。戦略的容積率緩和で選ばれる街への転換につきまして。

現在、都内の戸建てやマンションの高騰が続いております、いわゆるパワーカップルと呼ばれる高収入の方々でもなかなか家が買えないということで、子育てに良好な駅前住宅を求めて地方に、皆さん、移動されるのではないかとということも予想されております。

本市に隣接します柏市や流山市におきましては、つくばエクスプレスの開通に合わせまして、駅前の容積率を400%に設定しております。特に流山市は、子育て世代向けの高層マンションと商業地を一体として誘致することによりまして、人口増加率全国1位も記録いたしました。

翻って我がまち我孫子はどうでしょう。我孫子駅は東京駅、品川駅を直通いたします上野東京ラインが通りますし、常磐線各駅停車の始発駅といたしまして、流山市にも負けないようなポテンシャルがあります。しかし、駅前の都市計画図を見ますと、数十年前と変わらないような低い200%から400%というような容積率設定が、民間投資に対します見えない壁となっております。

1点目いきます。柏の葉キャンパス駅周辺や流山市が駅前の積極的な容積率緩和をいたしまして、民間資本を呼び込み、そして、若い世代や、また、税収増というような取り込みで成功した要因につきまして、本市はどのような分析をされていますか。

次、2点目いきます。

駅前の平面的な土地利用には限界があります。本市でも我孫子駅前におきましては、現在容積率は200から400%となっておりますが、駅徒歩5分圏内における容積率の引上げなどで、1階に店舗、そして、2階に良質な住宅を備えたような垂直方向への高度利用をすべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

次、3点目いきます。地域ごとの都市計画に対しまして。

まず、ア、天王台駅周辺なんですけれども、天王台駅周辺は我孫子駅に次ぐ利便性のある駅周辺と言いながらも、建物の老朽化が進んでおります。現在の200から400%という容積率におきましては、解体や建築コストを賄うだけの床面積が確保できず、リノベーションができず、です。そのまま駐車場として放置されているという話も聞いております。特定街区指定や、また、公開空地を設けるような容積率のボーナス設定などによりまして、駅前の更新を促してはいかがでしょうか。お答えをお願いいたします。

イです。湖北駅、新木駅です。

こちらのエリアにおきましては、今後、さらに高齢化や空き家問題が深刻化していきます。駅周

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

辺の容積率は、現状の200%から引き上げまして、1階に生活利便施設、例えばスーパーやクリニック、そして、中層階におきましては子育て世帯、高層階におきましては高齢者向けの住宅を配置することを提案いたします。駅前をよりコンパクトに、多機能型マンションの建設を可能にいたします都市計画の見直しが必要ではないでしょうか。お答えをお願いいたします。

次、ウです。市内全域ですが、階下にコワーキングスペースや、もしくは保育施設などを備えた多機能型マンションの誘致に向けました補助金や、また、税制優遇などの検討をしてはいかがかと考えますが、どうでしょうか。当市のお答えをお願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。中場聡都市部長。

〔説明員中場聡君登壇〕

○説明員（中場聡君） 初めに、（1）についてお答えします。

柏の葉キャンパス駅や流山おおたかの森駅周辺は、我孫子駅や天王台駅周辺と同程度の指定容積率400%とした土地区画整理事業によるまちづくりを行っていますが、本市との比較において居住や施設を利用する世代が若いことは認識しています。

この要因として主なものは、新駅開業に伴って、周辺の空地が活用できる自由度の高い土地区画整理事業ができたものと考えられ、さらには民間事業者とともに大型商業施設やマンションなどの付加価値を土地区画整理事業の計画段階から検討できたことにあると分析しています。また、都心へのアクセスのよさのPRや、子育て支援の充実など、ソフト施策についても並行して推進している結果と考えられます。

次に、（2）についてお答えします。

垂直方向への高度利用は、敷地の規模や周囲の道路幅員などに関係します。例えば、我孫子駅南側の指定容積率400%の商業地域には11階建てのけやきプラザ、北側の300%の近隣商業地域には15階建てのマンションが立地している一方で、敷地面積が狭いために階段室などを含めると効率的な間取りができなく、建築基準法の道路斜線や隣地斜線の制限により、容積率が指定容積率とは異なる制限を受ける場合もあるため、現状の指定容積率の上限を使い切れない建物も多くあります。

なお、柏駅東口の旧そごう跡地には、これまでの土地利用実績と将来の動向を踏まえた高度利用地区として、最低限度400%とともに最高限度800%の容積率が指定されていますが、柏の葉キャンパス駅ロータリーに面した指定容積率400%の敷地には、現在、43階建てのマンションも計画されており、本市においても前面道路と敷地の規模により土地利用の高度化も十分可能な指定容積率と考えます。

最後に、（3）についてお答えします。

都市計画法により、用途地域に応じて定める指定容積率や建ぺい率は、昭和48年に当初指定を

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

行った後に、土地区画整理事業や土地利用の進捗を踏まえ都市計画変更を重ねていますが、高度な土地利用が図られていないことが実態です。しかしながら、御指摘にある天王台駅周辺の近隣商業地域のうち、指定容積率200%の部分については土地区画整理事業が完了しているものの、比較的大きな未利用地が残っており、周辺の用途地域とのバランスを考慮しながら指定容積率を検証します。

なお、特定街区の活用については、県内では船橋駅南口などの事例がありますが、鉄道連続立体交差事業の進捗や大規模商業施設の建て替えに伴い、有効な空地の確保、歩行空間の改善、回遊性の向上が必要となり、建て詰まった街区単位の土地利用について空地を確保する代わりに高さ方向へ緩和するものであり、本市の状況には合わないものと考えます。公開空地についても目的は同様です。

湖北駅と新木駅周辺の指定容積率200%の用途地域については、我孫子駅北側の高層マンション群の指定容積率と同様であり、多機能型マンションも許容されます。また、新木駅南側に立地している複数の商業施設では、指定容積率が200%から400%のところ、40%程度しか利用されていませんので、現状においてはその上限を使い切れていない敷地がほとんどであると考えます。今後、事業者等から、一団の敷地において指定容積率を上回る建築計画の提案があれば、都市計画の見直しを検討していきます。

来年度は立地適正化計画を策定する予定であり、駅周辺には暮らしの質を高める都市機能を誘導し、コンパクトなまちづくりを進めていくこととしていますが、現在でもマンションの低層部を保育施設などとした複合施設の立地も許容しています。このような多機能型マンションは、世代を問わず一定の需要があると考えられますが、市としてマンション設置者に向けた補助金や税制優遇制度を設ける予定はありません。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 中場部長、ありがとうございます。

私もこれをつくりながら、キャンパス駅とかを見たんです。確かに400%だと思って。今、「あびまっぷ」というので都市計画が見れるんですね。これですと見ていると我孫子駅前400%があって、天王台ですよ、本当に狭いのは。十字で400%あるんですけども、すぐ行くと200%になっちゃって、そのあとがもう低層住宅になっちゃうというような、やっぱり開発がしづらいんですよ。老朽化が進んでいるビルも多くて、本当だったら複合化というか一緒に開発とかするといいんでしょうけど。

よく伺うのは、やはり床面積がなかなか確保できなくて、それで駅前には分譲マンションが造りづらいという話も聞いています。もし、それが緩和されれば、もうちょっと高層で分譲もできるん

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

じゃないかという話も伺うんですけども。我孫子駅も本当、駅前だけになっているんですね。この辺も、おっしゃったように40年前から変わっていないということなので、少し見直しも必要なんじゃないかなということです。私の考えとしては、やっぱりコンパクトシティなんですよ。より駅前にいろんなものを集約して。そうすれば、駅前の車だとかも少なく、送り迎えの車も少なくなるし、歩いて動ける、自転車で動けるようなまち並みというのは、我孫子の駅周辺、我孫子、天王台、湖北、新木にできるんじゃないかなと思っています。

そういった未来像を描くことが大事なんじゃないかなと思いますが、その点について、いかがでしょうか。お願いいたします。

○議長（日暮俊一君） 答弁を求めます。中場聡都市部長。

○説明員（中場聡君） 用途地域に関する都市計画として定める容積率と建ぺい率は、市街地における建築物の密度や高さ、敷地の状況、道路の整備状況など、有効なオープンスペースなどを勘案して適切に定めることが必要であり、現在は我孫子市用途地域等指定方針及び指定基準に基づいて定めることとしています。

その中で今、指定容積率400%の商業地域なんですけど、実際に、これはもう千葉県下でも建蔽率80%、指定容積率100%というのが標準という形で、さらにこの中で容積率を500%以上に上げるには、前面道路の、街区に接する道路が22メートルというものも原則としています。さらに、良好な住環境のまちをつくるためには、そういった容積率を上げるために地区計画などのことも必要となるため、現在、天王台駅の多分、北側の道路なんかは18メートルなんです、ちょっとそこに関しては、道路を広げないと指定容積率を上げられないということもあり、なかなか厳しい状況ではあります。

ただし、400%の指定容積率で建ぺい率80%となっているんですけど、実際、高度利用するためにはある程度の空間が必要になるため、建ぺい率を抑えた中で高度化利用をしなければならぬことから、マックス・マックスでという、マックスの建ぺい率とマックスの容積率ということになると、さすがに上にはなかなか上がりづらいというふうに考えています。

恐らく天王台北口辺りのちょっと低い5層、6層の建物なんかは、建ぺい率もマックスですし、容積率もマックスで、80%の400%を目いっぱい使った形になっていると思っております。

それと、ただ、建築物を建築するためには、建築基準法に基づき道路斜線というものと隣地斜線、北側斜線なんかもあるんですが、そういったものをクリアしなければならないため、道路に関しては前面道路がかなり広くなければ容積率を上げていくことができないというのが現状です。

一つ言えるとする、各街区の敷地面積がちょっと我孫子の場合は狭いということで、流山市なんかは当初から街区を大きく広くして、そういうものを誘致していこうという計画であったため、現在の高層化ができているんだと思うんですけど、今後は、なかなか難しいですけど、街区単位で

【会議録（暫定版）】 校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

まとまった土地にした中で計画がある場合なんかについては、そういったような形で容積率の緩和、公開空地を出す総合設計制度なんかも含めて、できる範囲では相談には乗りたいというふうには考えております。

○議長（日暮俊一君） 甲斐俊光議員。

〔甲斐俊光君登壇〕

○甲斐俊光君 詳しい話をありがとうございます。確かに駅、狭かったりすると思うんですけども。冒頭に述べたように、都内のパワーカップルが地方へ来る間に、やはりマンション住まいがいいという方で、なかなか我孫子市内で分譲マンションが手に入らないといった話もあると思うんですね。それは駅前に、もし、大きいのができれば、多くの市民税を払ってくれるようなパワーカップルが入ってくるとうれしいなと思っております。

こちら、そんなにデメリットがなければ、緩和して民間の資金に任せればいいと思うんですね。特に、私、天王台南口なんか80%の200%のところには住宅が建っちゃうんですね。僕なんかやっぱり小型の店舗とか建てほしいのが、住宅になっちゃうのは非常に痛いなと思って。これがもし80%、400%だったら、ちょっとしたビルも2つ買って造る人もいるかもしれないと思うんですね。だから、民間の資金も生かしてやっていただきたいなと思っております。

時間もたちましたので、以上で私の代表質問を終わります。どうも御清聴、ありがとうございました。

○議長（日暮俊一君） 以上で甲斐俊光議員の質問を終わります。

以上をもちまして本日の日程は終わりました。明日は午前10時より会議を開きます。本日はこれをもって散会いたします。

午後4時37分散会

本日の会議に付した事件

1. 市政に対する一般質問

出席議員

議長	日暮俊一君								
副議長	飯塚誠君								
議員	深井優也君				芝田真代君				
	船橋優君				島田安子君				
	山下佳代君				西川佳克君				
	海津にいな君				岩井康君				

【会議録（暫定版）】校正中の原稿のため、正式な会議録ではありません。

澤田敦士君	江川克哉君
芹澤正子君	高木宏樹君
西垣一郎君	甲斐俊光君
内田美恵子君	豊島庸市君
坂巻宗男君	早川真君
椎名幸雄君	茅野理君
木村得道君	佐々木豊治君

欠席議員

なし

出席事務局職員

事務局次長	佐野哲也
	工藤文

出席説明員

市長	星野順一郎君
副市長	渡辺健成君
教育長	丸智彦君
水道局長	古谷靖君
企画総務部長	高見澤隆君
(併) 選挙管理委員会事務局長	
財政部長	中光啓子君
市民生活部長	海老原郁夫君
健康福祉部長	飯田秀勝君
子ども部長	星範之君
環境経済部長	大井一郎君
建設部長	海老原正君
都市部長	中場聡君
消防長	宮崎治君
教育総務部長	佐藤和文君
生涯学習部長	菊地統君